

親潮

北水同窓会誌

2014
303
No.1

第303号
平成26年度 第1号

OYASHIO

北水同窓会 <http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>



練習船おしょろ丸（V世）

練習船おしょろ丸（II世）

練習船おしょろ丸（IV世）

練習船忍路丸（初代）

練習船おしょろ丸（III世）

特集 北水の今

北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸V世竣工

新学部長挨拶 会員の受賞 退職者挨拶 追悼 総会報告
クラス会報告 書評 ほか

親潮

第 303 号
平成 26 年度 第 1 号

OYASHIO

CONTENTS

学部長(研究院長)ならびに名誉会長就任にあたり	3
特集 北水の今	
北海道大学水産学部附属練習船 おしょろ丸V世竣工	6
北海道大学水産学部 代船建造小委員会委員長 木村 錠夫(昭55ギ)	
会員の受賞	8
高橋 孝三 氏(昭47化) / 福地 光男 氏(昭45ソ) / 齋藤 誠一 氏(昭50ギ) / 囊内 正典 氏(昭54ソ) 中屋 光裕 氏(平11生) / 桜井 泰彦 氏(昭48ソ) / 増田 恒己 氏(昭50ソ)	
退職教員あいさつ	11
嵯峨 直恒(特別会員) / 一色 賢司(特別会員) / 蛇沼 俊二(昭53ギ) / 中川 聰(特別会員) 木村 順一(特別会員)	
追悼	14
久保 治良 氏(昭35工)	
函館市国際水産・海洋総合研究センター開所式	15
齊藤 誠一(昭50ギ)	
「忍路丸」という船名と水産旗の発案者「遠藤吉三郎」先生の墓参	16
我妻 雅夫(昭52ソ)	
第94回定期総会報告	17
樋口 達夫氏(昭50食)オバマ米国大統領と固い握手	25
高橋 是太郎(昭50食)	
支部会・クラス会報告	26
杉田 哲夫(昭32工) / 伊藤 駿男(昭44ギ) / 国田 裕(昭45食) / 山口 伸治(昭49化) 高橋 是太郎(昭50食) / 浜谷 一郎(昭51化) / 梶原 善之(昭53ギ) / 平山 聰(昭54ギ)	
書評	31
学位取得と論文題目	32
卒業生の就職先	33
会員異動	33
会員死亡通知	34
親潮投稿規定・編集後記	34

お知らせ

第95回(2015年)北水同窓会 定期総会 開催案内(予告)

- 来年の北水同窓会定期総会は札幌にて5月に開催の予定です。
- 会員の皆様には是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。
- 詳細は追ってお知らせ致します。

問合せ先

- 北水同窓会札幌支部長 長沼昭夫(昭47ギ) / E-mail:naganuma@kinotoya.com
- または ● 北水同窓会札幌支部会計幹事
澤田和明(平3食) / E-mail:ta78524@xg8.so-net.ne.jp 電話090-8425-4455



- ご挨拶 - 学部長(研究院長)ならびに 名誉会長就任にあたり

北水同窓会名誉会長
安井 肇(昭55ソ)



この度、嵯峨前学部長研究院長の任期満了を受け、本年4月1日より学部長(研究院長)に就任いたしました。さらに2014年8月2日に函館で開催された第94回定期総会において、北水同窓会名誉会長に推挙されました。これら職責を全うする決心に際し、水産学部の意義と伝統の重さを改めて深く感じるところです。我国は今、少子高齢化、経済の停滞、産業競争力の低下、地域コミュニティの衰退、グローバル化とそれに伴う国際的競争の激化、急激な社会変動の中にあります。このような状況で大学の果たす役割は一層大きく、本学は水産科学を基盤にしたイノベーションを起こし社会改革を先導する人材の育成が真に期待されています。北水同窓各位のご協力を得ながら本学の発展・充実に精一杯努める所存です。

2014年は水産学部にとって格別の年になりました。6月2日に国際的な水産・海洋の研究拠点を目指して函館港の旧函館どつく跡地に「函館市国際水産・海洋総合センター」が開設されました。北海道大学をはじめ10の研究機関や企業が実験室・培養施設・分析施設等に入居しています。また、8月1日には新しい「練習船おしょろ丸V世」の竣工披露式と祝賀会が盛大に開かれました。練習船の港は「函館市国際水産・海洋総合センター」前の弁天B埠頭になります。この練習船は、約1600トンで主機間に電気推進装置や先進のphinsタビライザーを有し、複数の先端研究用途に対応したコンテナラボを組合せることが可能で、種々の深海探査機能は更に向上了っています。正に次世代の教育研究要請に向けた仕様になっており、海のキャンパスとしてこれから北太平洋をはじめ北極海、インド洋など世界の海域で活躍し、教育・学術・社会的な貢献が大いに期待されています。

北海道大学は、1876年の札幌農学校設立以来、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」、「実学の重視」の基本理念を培い、古い因習から開放された自由闊達な環境と北の大地での厳しい自然の中で独立心、進取の気風、独創性を育てる我国の基幹総合大学として発展してきました。

我々の基盤としている水産学の源流は、札幌農学校第一期生で後に千歳のサケマス孵化場を開いた伊藤一隆、北海道の多様なコンブ類を研究した二期生の宮部金吾、「漁業も亦学問の一つ也」の卒業演説を行った二期生の内村鑑三などに遡ります。この黎明期においてすでに水産の生物資源に関わる学問・教育体系が発生し、多くの優れた人材が水産界・教育界などに貢献し独自の発達してきた経緯から、1907年、札幌農学校に水産学部の前身となる水産学科が創設されました。このため水産学部は今も札幌農学校の精神を最も色濃く宿している部局の一つとなっています。

1949年には、日本の最高水産教育機関として高度の学理的研究を遂行し、世界における我が水産界の地位を高め、学識と技術において業界のための指導的人材を養成すること目的に水産学部が設置されました。北海道大学に由来する水産学は主に水圈における生物生産、食料供給の学問として100年以上貢献してきました。今後も世界的な人口増加と食糧難の方向にあることからこの点は重要です。

さらに近年、地球を取り巻く様々な環境変動、生物多様性の減少、自然資源の枯渇、人の対立が際立ってきています。これらに大規模災害やパンデミック、人口高齢化などの諸問題が相まって人類共通の複合的課題が迫ります。水産科学はこういう状況とどう向き合い、課題解決し地球環境や人類に貢献していくのか。有限の地球、生長の限界という重く閉塞的な認識のなかで、北海道大学の水産科学は地球環境や資源に持続可能であるという視点を取り入れた「持続可能性水産科学」が歩み始めています。

2007年に、水圈における持続的生産、効率的利用、水圈生態系の保全に関する基礎並びに応用の教育研究を行うことで高度の研究能力と広い視野を持つ人材の育成を図ることを目的に大学院水産科学院が設置されました。同時に水産資源の持続的生産に基づく食料保障と人類生存と繁栄に関わる課題解決のための研究を行うことを目的に大学院水産科学研究院が設置され今に至っています。

次の100年間を見据えた時、水産科学は食、環境、ライフスタイルなどでどのような夢を人々に見せることができるでしょうか。海の宝を探索し、磨き上げ、新しい価値を生み出す水産科学。地球上の水圈生産を巡って新たな価値と期待を孕む社会システムが創出できないか。それを駆動し実現する「未来を創る水産科学」という視点も必要であると思います。例えば学生や院生諸君が50年後、100年後の世界をバックキャスティングした発想で学び活動することで、これまで誰も見たこともない優れた食の世界、壊された水圈環境をより豊かな形で修復する画期的技術、世界の人々が健康で美しいまま人生を送ることのできる海洋産業が実現するかもしれません。

これからも同窓会の皆様から力強いご支援とご協力を得て、札幌農学校開校時から続く「高邁なる野心」を抱き、学生、教員等が協働して「持続可能性水産科学」と「未来を創る水産科学」を推進してまいります。

最後になりますが、北水同窓会のますますの発展をこころより祈念し、水産学部長(研究院長)ならびに北水同窓会名誉会長就任の挨拶といたします。

北海道大学水産学部附属練習船 おしょろ丸V世竣工

北海道大学水産学部
代船建造小委員会委員長 木村 暉夫(昭55ギ)



写真1 山口北海道大学総長ご令嬢聰子様による支綱切断式典
(岡山県玉野市の三井造船株式会社玉野事業所、2014年3月14日)

平成26年7月28日、約31年にわたり活躍した北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸(1983年竣工)に代わり、新おしょろ丸が竣工した。1909年(明治42年)竣工した初代忍路丸(162トン)から数え5代目となる北水待望の練習船である。おしょろ丸V世の建造目的は、海技免許状の取得を目指した特設専攻科(平成14年3月廃止)の実習教育から大きく転換し、「世界の水産・海洋分野で活躍する人材の育成」、および「海洋生態系の保全と食資源の確保、持続可能な資源管理」といった現代の水産科学分野のニーズに対応出来る練習船として、平成23年、文部科学省より2年間の建造予算の内示を受け、平成24年度から代船建造が始まった。

建造に先立ち、高度な調査・観測能力を十分発揮する船体を確保するため、抵抗試験、波浪中横揺れ試験、伴流試験、泡切れ性能試験、プロペラキャビテーション試験等の模型実験とシミュレーションを実施し、優れた推進・操縦・耐航性能を有する船型を設計した。実際浮かんでいる船体から見ることはできないが水面下にこそ新おしょろ丸の特徴の多く

が凝縮している。また、煙害試験も実施して、漁労作業を行う学生やコンパスデッキで鯨、イルカ、海獣等の海産ほ乳類や海鳥類の目視観測を行う研究者へ排煙が影響を及ぼさないよう煙突や上部構造物の配置を調整した。

平成25年3月21日、岡山県玉野市の三井造船株式会社玉野事業所で佐伯浩北海道大学総長(当時)、嵯峨直恆水産学部長(当時)、他9名が列席し起工式を行った。その間、新おしょろ丸装備の目玉である船体動搖を大幅に低減する格納型フィンスタビライザーの納期の関係から、建造期間が約4ヶ月伸びたが、平成26年3月14日、山口佳三北海道大学総長他多くの北海道大学、三井造船株式会社関係者が列席し“おしょろ丸”的命名・進水式を無事挙行した。山口総長の「おしょろ丸」命名の後、総長ご令嬢聰子様が支綱を切断(写真1)船体がゆっくり船台を滑りその勇士を瀬戸の海に浮かべた(写真2)(船体の船名の揮毫は山口総長による)。その後、順調に建造作業が進められ艤装作業・海上公試も完了し、7月18日玉野を出港し7月22日に函館に入港、6



写真2 おしょろ丸V世進水式
(岡山県玉野市の三井造船株式会社玉野事業所、2014年3月14日)

月2日にオープンしたばかりの函館市国際水産・海洋総合研究センター横の弁天B岸壁に着岸した。これからは、当岸壁をほぼ専用岸壁として使用し、洋上実習を実施する。7月25日に竣工検査を行い、7月28日、北海道大学への引渡式を行って水産学部附属練習船おしょろ丸V世が竣工した。そして8月1日、函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて、文部科学省大臣官房佐野太審議官、山口佳三北海道大学総長、安井肇北海道大学水産学部長(昭55ゾ)他約190名が列席し、竣工披露式を盛大に挙行した(写真3)。その後、場所をロワジールホテル函館に移し竣工祝賀会を盛大に催した。

翌8月2日午前中におしょろ丸V世の一般公開を行い、短時間にもかかわらず約1,500名の見学者が訪れ、新おしょろ丸に対する函館市民の関心の高さが伺えた。午後からおしょろ丸・研究センター見学会、国立科学博物館 窪寺恒己博士(昭50ゾ)による「ダイオウイカ、奇跡の遭遇-最新技術で迫る深海の世界-」の講演が行われ、200名を超す来聴者(内同窓



写真3 おしょろ丸竣工式テープカット

生127名)が今話題のなぞの多い深海に生息する巨大イカの話に聞き入った。夕方五島軒本店において平成26年度北水同窓会函館支部総会、定期総会を開催した。懇親会には、全国から160名を超える同窓生が集い新おしょろ丸の竣工を肴に盛り上がった。



おしょろ丸V世の概要を簡単に説明する。おしょろ丸V世は、全長78.27m、幅(型)13.00m、深さ(型)5.80m、計画満載喫水(型)5.00mのウエル甲板船で、国内総トン数 1,598トン(国際総トン数 1,998トン)である。おしょろ丸V世の一般配置図を図1に示す。船首尾楼間の特徴的くぼみ(凹)がウエル甲板で、従来のおしょろ丸(Ⅲ世、Ⅳ世)の流れをくむ観測や実習の利便性にこだわった形状である。船尾にスリップウェイを設けた船尾トロール型の船型は、一見おしょろ丸IV世と似た外観を呈するが、煙突を右舷に寄せて観測・実習に適した甲板配置にする等、次世代を伺うスマートな外観となっている。船体規模は、おしょろ丸IV世(1,396トン)に比べて約200トン増え、一回り大きくなった。また、北海道近海からベーリング海、北極海を含む亜寒帯水域における航行を考慮し、IC級耐氷構造に準拠した構造とした。国内で耐氷構造を採用した練習船は、おしょろ丸だけである。

性能は、航海速力 約12.5ノット、航続距離 約10,000海里、最大搭載人員は99名(乗組員32名、教員7名、学生60名)で、学科の学生全員を乗船させるため学生定員自体60名とIV世から変更はない。

推進装置として、従来のディーゼルエンジンに変え電気推進装置を採用した。主発電機(1,200kW×3基)で発電し、モーターとなる2基の推進電動機(3相誘導電動機:連続最大出力 1,000/300kW二速切替方式)を駆動し、減速機を介して4翼の可変ピッチハイスクエープロペラを回す。電気推進装置とハイスクエープロペラを採用することで、エンジン音や船体振動が大幅に低減され、その結果水中放射雑音も低減する。新たに導入した高精度な観測機器への影響が低減され、精度の高いデータ収集が可能となり、同時に船内の静謐性も向上した。

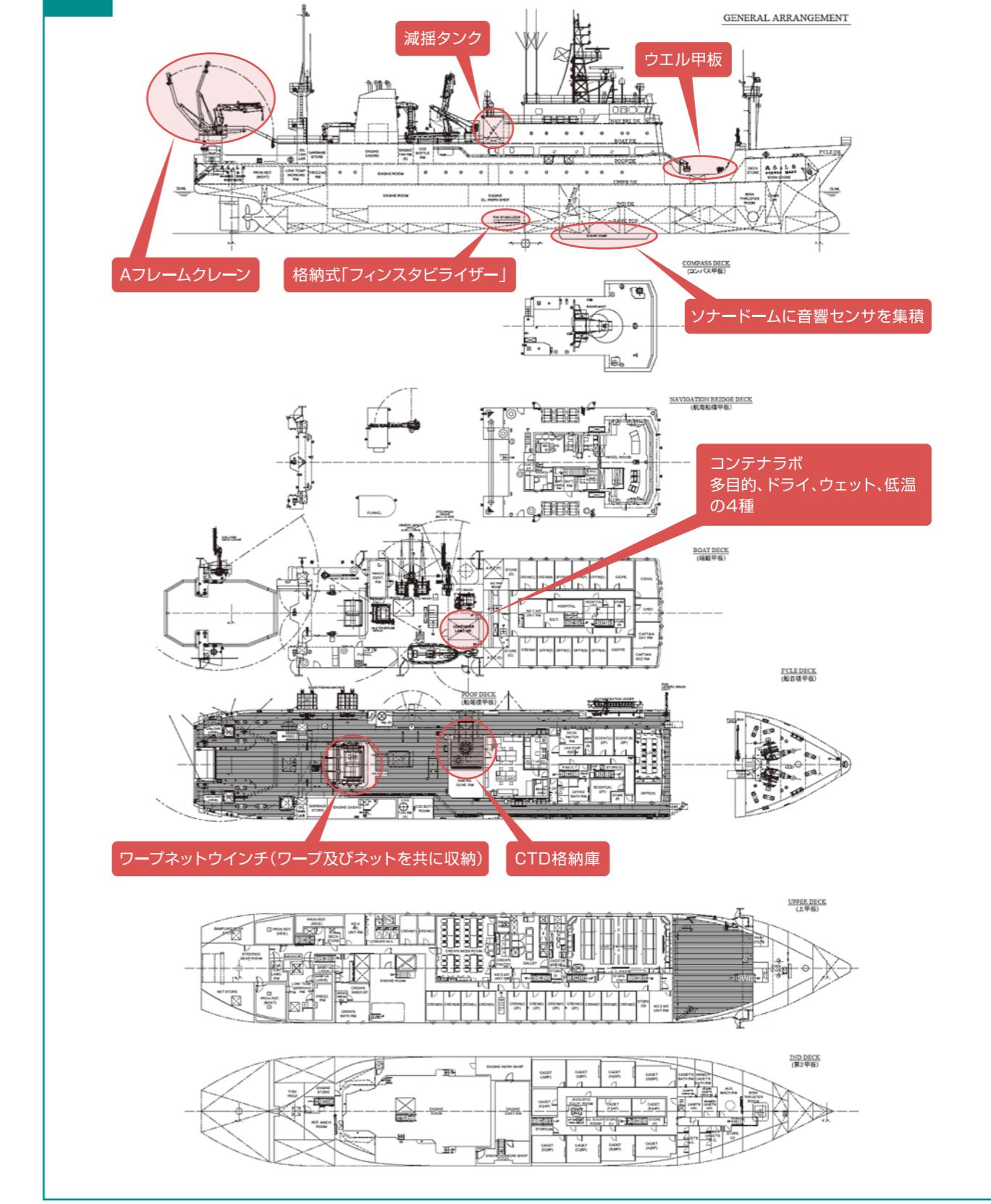
観測設備では、海底地形探査用マルチビームソナー、計量ソナー、多周波計量魚群探知機、多機能ROV(遠隔操作無人潜水機)など最新式の水産資源・海洋計測機器を搭載した。8,000mのCTD/観測ワインチを装備することで、観測可能な水深が拡大し、海洋体積の約95%まで調査可能となった。端艇甲板上にはクリーン、低温、ウェットと研究目的に応じ交換可能なコンテナ型実験室「コンテナラボ」を装備し、高度で多様な教育・研究に対応していくた

めの環境整備を行った。これらの観測機器は、航海が予定されている東日本大震災で被災した東北沿岸域の漁業復興への活用が期待できる。

学生・研究者の居住環境の向上には特に配慮した。船体動揺を低減する従来からの減揺装備「アンチローリングタンク」に加え、格納型「フィンスタビライザー」を搭載して航行中の横揺れ動揺を大幅に軽減することで、実習や観測時の安全性や居住性を高めた。「船酔いは病気でない。なれろ!」と言われて揺れる船上で実習を行った同窓諸氏にとっては、隔世の感があることと推察する。また、女性専用のトイレや浴室を装備し、今後ますます増加が予想される女子学生・研究者の居住環境へ配慮した。

おしょろ丸は、これまで「水産科学」やその関連分野の研究と実習に取り組む教育プラットフォームとして、さらに国内外の大学・研究機関との交流・国際共同研究等の推進のため年間約177日間運航してきた。この航海日数は、ほぼフル稼働状態といえる。2011年度から文部科学省の「教育関係共同利用拠点」の認定を受け、他大学の学生の受け入れを積極的に進め教育の高度化と大学間ネットワークの強化に貢献している。また、北大新入生を対象としたフレッシュマン航海や国際社会で活躍する人材育成プログラム「新渡戸カレッジ」でも、洋上体験学習に活用されている。このように、今やおしょろ丸は北水ばかりでなく北大全体、さらには関連する他大学からも期待されており、今後ますます洋上の教育研究プラットホームとしての重要度が増して行くであろう。しかし、不思議と「おしょろ丸なら何とかしてくれる」と思える、十分なポテンシャルを秘めた練習船である。

図1 おしょろ丸V世 一般配置図



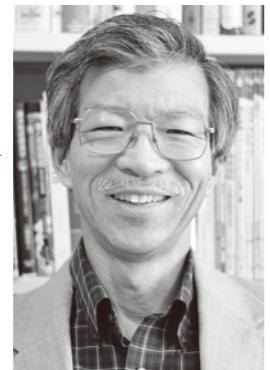
会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

高橋 孝三 氏(昭47化) 2013年度地球環境史学会賞

大西 広二(平元ギ)

高橋孝三氏(昭47化)は、時系列セディメントトラップを用いた海洋沈降粒子フラックスの研究に関して先駆者として取り組み、数々の成果を挙げてこられました。特に、生物源・オパールの殻・骨格を持つ、放散虫、珪藻、珪質鞭毛藻などの珪質プランクトン群集を中心、に、海洋に生息する有殻プランクトンの沈降過程と季節変動、そして初期化石化プロセスについてバイオニア的な研究を行ってこられました。



北海道大学水産学部附属練習船おしょろ丸による北太平洋亜寒帯域およびベーリング海における沈降粒子フラックス観測を、1989年から2010年まで20年余りの長期間にわたって実施し、世界有数の高生物生産域における生物ポンプ稼働効率を実測されました。多様な珪質微化石群集の研究に取り組まれた結果、放散虫、フェオダリア、珪藻、珪質鞭毛藻の各分類群について合計36種の新種記載を行い微古生物学分野の発展に貢献されました。さらに国際深海掘削計画(ODP)および統合国際深海掘削計画(IODP)に参加され新生代の海洋環境復元に精力的に取り組まれました。IODP Expedition 302北極海掘削航海では、乗船研究者として北極海の海氷形成の始まりと南極氷床形成との対応関係について初めて科学的知見を得ることに貢献されました。さらに、IODP Expedition 323ベーリング海掘削航海では、研究代表者として掘削提案を行なわれ、共同首席研究者として研究チームを率いられました。本航海は、深海掘削史上初めて我が国の研究者が古海洋学掘削提案を主導したものとして高く評価できる航海です。加えて高橋氏は、ODPからIODPへの移行期以降、暫定科学立案評価パネル共同議長やIODP-MI理事をはじめ各種委員を歴任され、日本代表として深海掘削研究の推進において世界をリードす

る指導的役割を果たしてこられました。以上のような地球環境史の解明に対する顕著な功績に鑑み、地球環境史学会より高橋孝三氏に2013年度地球環境史学会賞が授与されました。この受賞を心からお祝い申し上げますと共に、われわれ後進へのますますのご指導をお願いする次第です。

CONGRATULATIONS ON WINNING

福地 光男 氏(昭45ゾ) 齊藤 誠一 氏(昭50ギ) 「宇田賞」ダブル受賞

平譯 享(特別会員)



福地光男氏(昭45ゾ) 日本海洋学会「宇田賞」受賞風景
(右端が日本海洋学会長 植松光夫氏(昭50化)、
右から2番目が福地光男氏)



齊藤誠一氏(昭50ギ) 水産海洋学会「宇田賞」受賞風景
(左が和田時夫学会長、右が齊藤誠一氏)

福地光男氏(昭45ゾ)が2014年3月28日に日本海洋学会「宇田賞」を、齊藤誠一氏(昭50ギ)が2014年3月26日に水産海洋学会「宇田賞」を、関連学会の同じ「宇田賞」を同時に受賞しました。日本海洋学会「宇田賞」は、顕著な学術業績を挙げた研究グループのリーダー、教育・啓蒙や研究支援において功績のあった者など、海洋学の発展に大きく貢献した学会員へ授与されるものです。同賞の同窓の受賞は、2005年度に谷口旭氏(昭40ゾ)、2008年度に角皆静男氏(特別会員)がおります。水産海洋学会「宇田賞」は、初代会長の名

前を冠し、1996年から、水産海洋学研究において顕著な業績を挙げた正会員および外国会員に対して1名に授与されるものです。同賞の同窓の受賞は、1998年度に桜井泰憲氏(昭48ゾ)、2000年度に二平章氏(昭48ギ)、2002年度に中田薰氏(昭56ゾ)、2003年度に渡邊良朗氏(昭50ゾ)、2005年度に岸道郎氏(特別会員)がおります。

福地光男氏は、情報・システム研究機構国立極地研究所に長年勤務され、副所長を務めるなど国内外の共同研究推進に貢献し、現在名誉教授であり、昨年10月1日より北海道大学東京オフィス所長を務めています。今回の授賞題目は「我が国における極域海洋学研究の発展と国際的・学際的共同研究推進」です。

齊藤誠一氏は、大学院水産科学研究院の現役教授で、北水同窓会本部幹事長を務めています。今回の受賞者業績課題は「水産海洋研究への衛星リモートセンシングと地理情報システムの導入と展開」で、研究成果を実際に漁業者への水産海洋情報サービスの実用化などの社会実装に貢献したことが評価されたものです。

両氏ともに職場の同僚ということで受賞を紹介させていただきました。福地光男氏は、私の前職の国立極地研究所助手時代に、齊藤誠一氏は現在北海道大学で、同じ講座に所属し、衛星海洋学研究グループの同僚です。ここに、両同窓の「宇田賞」ダブル受賞をあらためてお祝いしたいと思います。

CONGRATULATIONS ON WINNING

岡内 正典 氏(昭54ゾ) 平成25年度日本水産学会 「水産学進歩賞」 受賞

水田 浩之(昭61ゾ)



岡内正典氏は、1979年に北海道大学水産学部水産増殖学科を卒業され、1980年に水产廳養殖研究所遺伝育種部研究員として入庁、以降西海水産研究所および養殖研究所において水産増養殖

を支える餌料用微細藻類の生産に従事してこられました。現在は、2001年の中央省庁等改革に伴い設立された(独)水産総合研究センター・増養殖研究所・養殖研究センターにおいて育種基盤グループ・主幹研究員としてご活躍中です。

同氏は、より効率的な海産魚介類の量産技術の確立に向けて、餌料となる微細藻類の効率的培養技術の開発にご尽力されてこられ、平成13年度には「海産魚介類の初期餌料用微細藻類の大量培養技術の開発」で日本水産学会技術賞を受賞されました。その後、高水温条件下でも安定的に生産でき、かつ高い増殖能力を有する餌料用微細藻類の作出を目指すと共に、その作出株の特長を生かす培養法の開発に携わってこられました。また、海産魚類の必須脂肪酸であるEPAやDHAなどn-3HUFA含量を指標とし、栄養価の高いものを選抜し、より有用性の高い株の作出を試みてこられました。

その結果、珪藻類の1種*Chaetoceros neogracile*では35℃で増殖可能、40℃を越える屋外でも生存しうる株の選抜に成功し、高水温条件下における餌料用微細藻類生産の技術のレベルを格段に押し上げることになりました。また、魚類の餌料用にとどまらず、二枚貝の餌料生産にも大きく貢献され、従来の増殖可能温度が20~23℃とされ25℃を超える条件での培養は困難とされていたハプト藻類のイソクリシス*Isochrysis galbana*やパブロア*Pavlova lutheri*においても30℃を越す条件でも増殖する株の作出に成功されました。これらの株は、生産規模で培養され餌料として実用化に至っています。さらに、上述した餌料用微細藻の育種のみならず、その低コストで効率的な培養法の開発も積極的に取り組まれ、今後の成果にも大きな期待が寄せられています。

これらの長年にわたり蓄積された技術や知見は、今後の水産増養殖の効率化および持続化に大きく貢献するものです。同氏が実践してこられたコロニー形成による選抜法は、長い期間と多大な労力を要する作業です。強い信念のもと、長年にわたり地道にご努力されてきたその成果は北水同窓会の後輩に良い指針を与えてくれるものであります。岡内正典氏に敬意を表するとともに、この度の受賞を心よりお祝い申し上げ、今後益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

中屋 光裕 氏(平11生) 日本水産学会水産学奨励賞を受賞

高津 哲也(昭63ギ)

中屋光裕氏(平11生)が平成25年度日本水産学会水産学奨励賞を受賞しました。受賞課題は「飼育実験によるサンマの資源動態モデルに寄与する生体情報の取得」です。サンマは大衆魚ですが、その生態は謎だらけで、飼育による生態解明も難しい魚として有名で



CONGRATULATIONS ON WINNING

桜井 泰憲 氏(昭48ゾ) 第7回海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)

綿貫 豊(特別会員)

海洋生物多様性に対する専門的助言により「海洋に関する顕著な功績」の分野で表彰されました。桜井先生は、長年にわたり海洋生態系および高次動物、特にイカ類の生態や資源変動機構に関する研究を主導し、資源管理に有益な助言を与え続けてきました。

また、知床世界自然遺産候補地科学委員会委員として、漁業者を始めとする多くの利害関係者の合意形成に中心的役割を果たし、多利用型統合的海域管理計画を策定されました。

さらに、中央環境審議会臨時委員として、自然公園法における海域保全の強化、海洋生物多様性保全戦略の策定、重要海域の抽出に大きく貢献されています。

これらの業績が高く評価されました。これからもますますのご活躍とご健康をお祈りします。

ミス日本「海の日」を挟んで
左が桜井泰憲氏(昭48ゾ)
右が窪寺恒己氏(昭50ゾ)



退職教員あいさつ

定年退職を迎えるにあたって

嵯峨 直恵(特別会員)

本年3月末日をもって北海道大学を定年退職となりました。私が北海道大学水産学部にお世話になりはじめたのは平成13年度からですから、函館に赴任してから13年間経ちます。この間水産学部の皆様そして北水同窓会の皆様には公私共々大変お世話になりましたこと、ここに心から感謝致します。



若い頃、植物の発生学を志し、北海道へ渡ってきました。当時は、本州から鉄道の汽車・青函連絡船を乗り継ぎ道内に達する迄、一昼夜の長旅でした。室蘭の海藻研究施設(現北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所)にお世話になり研究を行いました。ここでは、本州では入手できない、植物の受精や初期発生に関する実験材料として適する褐色の海藻「ヒバマタ」を容易に入手できました。初めて暗視野顕微鏡で見た「ヒバマタ」の卵は、黄金色にキラキラと輝き、満天の星の如く美しかったことを今でも覚えています。爾来、海外留学や本州への赴任等で何度も道外へ出ることありましたが、幾星霜を経て北海道在住者として現在に至っています。北海道で初めて海藻に出会い四十有余年、海藻に関する分野(海洋植物学・応用藻類学等)、またはその周辺で人生を送ることができたことは私の幸せであり、歓びでした。

本年4月からは、縁があり弘前大学の青森サテライトキャンパスに新設の弘前大学食料科学研究所にお世話になっております。2年後には、新幹線も函館に延伸されます。当面は、北日本食の成長戦略の下、青森県の農林水産物の高機能ブランド化に挑戦し、「ファームと外食産業を繋ぐ・地方と大都市を繋ぐ・そして海外へ」をモットーに研究活動に勤しみ、かつ、青函圏を繋ぐ研究開発交流・新産業創成に精励致したく存じます。その後は第二の故郷北海道に骨を埋めようと思っています。

北海道大学は私の人間形成にとって間違いなく掛

け替えのない大切なものでありました。末筆となりましたが北水同窓会に心から厚く御礼申し上げ、離任の挨拶とさせていただきます。

起きて一畳、寝て二畳、 天下取っても二合半

一色 賢司(特別会員)

残暑お見舞い申し上げます。皆さん、お元気ですか。小生は、本年4月から(火)(水)(木)は、東京・元代々木の一般財団法人日本食品分析センターに出勤しています。職員や来訪者とお話しをしたり、各課からの質問に答える形式で昼飯前ゼミを行ったりしています。



孫のいる東京に移り住んで、定年退職後のゆっくりした生活ができると思っていたが、見込み違いでした。アクリフルーズ事件等の影響でしょうか、(月)(金)の方が行方が定まらず、依頼に応じてアチラコチラとウロウロしています。

東京は怖いところで、一般社団法人食品安全検定協会の立ち上げにも巻き込まれてしまいました。小生の知らないうちに中級が準備されていましたが、初級も早目に必要となりました。両方とも来年3月1日~31日に全国で実施することになり、運営委員長にされてしまいました。食品関係のお仕事をされている方も、されていない方も、食品安全の科学的理解の一助になると思いますので、検定にトライされてはいかがでしょうか。

北水OBは、食品業界を始めとする製造業や流通小売関係に沢山おられます。公務員にも多く、日本食品分析センターにも何人もおられます。食料自給率が低い我が国は、知恵を出して世界中の人々と食料を確保して行く必要があります。国連は、7人に1人は栄養不足であると、飢餓の克服を訴えています。品質の良い収穫物を売りに出して、カビの生えた収

退職教員あいさつ

穀物を食べるを得ない人も沢山います。

我が国では、科学的根拠を確認もせずに「念のために食べない」ことが食品安全だと思っている人がいるようです。天下取っても二合半しか食べられません。それ以上のフードロスをしている人は、食生活を見直していただきたいと思います。

従属栄養動物であり、食べなければ死んでしまう人間は、後世代のためにも、科学的根拠を持って食生活を送るべきだと思っています。後世代のためにも食品安全への誤解によるフードロスを減らす努力を、もう少し続けてみようと思っています。

また何処かで、元気で会いましょう。

退職のご挨拶

蛇沼 俊二（昭53ギ）

この度、私一身上の都合により退職させていただくことと致しました。定年まで3年を残しての中途退職となり、その事で多くの諸先生方に多大なご迷惑をおかけして退職することに、誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます。

思えば、昭和48年に水産類に入学し、一時期、怠惰な学生生活を過ごしました。4年生となり、あまり明確な目的も持たず、先般亡くなられた川島利兵衛先生の講座に配属となりました。講座に入って間もなく、川島先生から読んでみると与えられた一篇の英文の論文を読み、まさに目の覚めるような強烈な感動を受けました。私にとって科学研究というものを覗き見た一瞬でした。それ以来、私の勉学生活の大変革が起こりました。あの時のことはたぶん人生で一度限りであろうと思われる貴重な体験でした。その後大学院に進みましたが、大学院生時代の充実した一時期は私の人生の誇りであると今でも考えております。

以後、この水産学部からまったく離れることもなく、世間知らずにきた私は、多くの諸先輩・仲間からのご指導ご鞭撻を頂きながらここまでやってこられました。皆様に深く感謝申し上げます。



退職のご挨拶

中川 聰（特別会員）

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私は5年間勤務致しました北海道大学を退職し、本年4月1日より京都大学大学院農学研究科に勤務しております。北海道大学在勤中、何かと至らない私が大過なく職責を全うできましたのは、ひとえに同僚教職員の方々や多くの先輩諸兄、学生をはじめ皆々様のご支援の賜と、厚く御礼申し上げます。

長くも短く、短くも長い北海道生活は夢のように流れ、振り返れば数知れぬ出来事が思い出されます。仕事に慣れ研究室を立ち上げるまでの悪戦苦闘、雪道でのスタッフ、函館の美しい街並や函館山周辺の哀愁漂うたたずまいが、彷彿と蘇り早くも懐旧の情を禁じえません。

京都では海が遠くなってしまいましたが、引き続き深海底熱水活動域から潮間帯まで幅広い海洋環境に見られる生態系を対象に、微生物の関わる特異な生命現象や生物間の相互認識・相互作用の研究に取組んでおります。海洋国家=日本における海洋研究の独自性に資すると同時に、本国を源流とする生命科学分野での新機軸をうちだし、「生命の理解により社会と経済の発展に資する知見・情報を提供する」という使



退職後は、以前から取り組んでみたいと考えていた、いくつかの課題について、勉強してみたいと考えております。4月からは、人生、二度目の大学一年生のつもりで新たに基礎から勉強を始めたいと計画しております。

最後になりましたが、この栄光ある水産科学研究院の今後のますますの発展と諸先輩先生方・皆様のご健勝をご祈念申し上げて、私の退職のあいさつとしたいと思います。

長い間、本当に有難うございました。

命を果たせるよう、従来にも増して一生懸命努力していく覚悟でございます。教育では、世界に通用する高い倫理性とともに、幅広い学識と海洋微生物学分野における高度の専門知識・研究能力を兼ね備えた人材を養成するため、講義や実験・実習に尽力しております。

何卒今後とも一層のご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

退職にあたって

木村 順一（特別会員）

昭和52年3月1日、函館港内のブイに係留しているおしゃろ丸Ⅲ世に末広町から通船で乗船、三等機関士の辞令をいただいて以来37年におよぶ船員生活を終えて、本年3月31日に北海道大学水産学部を退職いたしました。



最初の北洋航海は6月、藤井船長、富沢機関長等のメンバーで200カイリ時代に突入したベーリング海への航海でした。霧の濃い北の海を、稚魚ネットを引き、ナンゼン採水器で採水し、鮭鱈の網を手繰りながら約一ヶ月の航海をして、アメリカ独立記念日にアラ

スカ州セワードへ寄港しました。寄港地では西山先生をはじめアラスカ大学の先生方に大歓迎をしていただき非常にうれしかったことは忘れられません。

その後、北は北極海から南はインド洋まで数多くの航海を通して、乗組員をはじめ乗船された先生方や学生さんに支えられ助けられて過ごしてまいりました。また数多くの寄港地におきましては北水同窓会の諸先輩方の歓迎を受け、非常に楽しい時間をすごさせていただき本当にありがとうございました。

学内では、水産学部創基75周年、並びに100周年の行事に参加することができ、また、おしゃろ丸IV世の建造、最後にはおしゃろ丸V世の建造準備に加わることができ大変光栄に思っています。

平成11年4月におしゃろ丸の機関長に着任後は、北洋航海中にメインエンジンのシリンダカバーの経年劣化による損傷で復旧作業に20時間以上かかったことがありました。また、船齢が20年を過ぎたころからの延命工事等いろいろ頭を悩ますこともありましたが、乗組員をはじめ学内外の諸先生や北水同窓会の皆様方のお一層のご支援をいただき、微力ではありましたが無事退職できましたことを深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、練習船おしゃろ丸V世が就航した北大水産学部の益々の発展と北水同窓会の皆様方のご健勝とますますのご活躍を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

食品工場・厨房内の自主検査のお手伝いをします。

HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

★食品の微生物検査 ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査 ★食品の賞味期限の設定
★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト ★衛生関係資材の販売
★各温度帯における保存テスト ★その他衛生指導、社員教育などご相談をお受けします。

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野 和弘 昭和42年製造

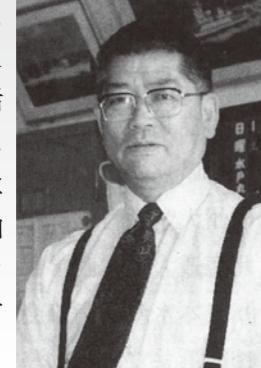
松原 伸二 昭和62年化学 久保 雅俊 平成12年資源 中川 恵介 平成23年生命 笹原 麻未 平成23年生命

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 TEL:011-786-8300 FAX:011-786-8266
URL:<http://www.qandc-lab.com/> E-mail:haccp@qandc-lab.com

追悼寄稿

久保治良君(昭35エ)の死を悼んで

細萱 安彦(昭35エ)



平成25年の師走を迎える滋野君(昭36エ)と水戸まで久保さんのお見舞いに行こうと話し合っていた矢先、12月4日に守屋君(昭35セ)から「奥様より昨日主人が亡くなったとの知らせがあった」との連絡を受けた。その時は、もう一度会って少しでも話をしたかったのに、遅きに失したと非常に残念に思った。彼は数年前に前立腺癌を手術され、その後の経過は順調とのことでトルコや台湾旅行をされるなど検診を受けながら元気に過ごしているとの便りを貰っていた。5月、いつも参加していた恵迪寮同期会鎌倉会合には体調が思わしくないとのことで姿を見せなかつた。その上、幹事宛に奥様を通じて本人から皆にお見舞いに来るなど達しが出ていた。そのため、水戸までのお見舞いを控えていたところであつた。

久保さんは長野県立上田松尾高等学校から信州大学を中退して北大に入学、昭和35年3月水産学部遠洋漁業学科を卒業、(社)日本水産油脂協会、(株)横浜共立倉庫を経て、昭和38年より6年間を富山県水産試験場、昭和44年より27年間を茨城県水産試験場に勤務し退職された。その後は、平成8年より4年間を(社)漁業情報サービスセンターに勤務された。

長期間に亘り水産試験場において地方での海洋研究の一時代を作った人物と言われ、この間に多くの業績を残された。茨城県水産試験場を退職された時にまとめた退職記念誌「まんぼうの詩」を送ってくれたが、今読み返してみると63件の研究論文の他に印刷されていない重要な報告書があると記載されている。

特に印象に残っていることは、私が漁業情報サービスセンターの事業を手伝うことになったと話をした時、そこは、かつて俺が異常冷水の漁況への影響について警鐘をならし、国家レベルでの漁況、海況の予報が必要だと提唱したのがきっかけで、その結果、国の補助事業として漁況海況予報事業が予算化され、後に、(社)漁業情報サービスセンターが設立され、今日まで事業が継続されることになったと話してくれたこと。

その他に、海洋観測を基に「鹿島灘の海況」(I~VII)の研究論文を発表し、当時の東海区水研の友定氏(海洋

学者)と暖水舌に関する研究を共同で行い、海況シリーズとして報告された。この研究を基に、昭和60年に「常磐南部から鹿島灘海域の海洋特性」というテーマで博士論文を北大に提出し、翌年に学位を授与され博士となつたこと。当時、博士となつたと話を聞き大変うれしく、よく頑張ったと彼のすごさに驚かされた。また、友定氏(当時東北水研海洋環境部長)と共に著で、茨城の海を中心に海に関する疑問やナゾをやさしく解説した「茨城の海なぜ?なぜ?」(単行本)を発行したこと。今読み返してみると一つ一つの疑問に答える方法で纏めてあり、大変わかりやすい本だと感心させられる。久保さんは「友定さんに会わなければ私の暖水舌研究はなかったと思うし、彼は良き師であり、良き共同研究者でした」と回想録に述べているが、その後、はからずも、私も友定さんと漁業情報サービスセンターの漁場探索技術開発事業のスタッフとして一緒にすることになったが、彼は、久保さんは頑張り屋であったと不屈の精神を褒められていた。また、私も久保さんと同様に友定さんには海洋の師として大変お世話になつた。

久保さんは恵迪寮時代に初めてお会いし、同じ信州出身ということで親しみを感じていたが、水産学部に移行後同様に遠洋漁業学科を専攻し、海洋気象学講座で一緒になった。特に、この講座で卒業論文を纏めるため、秋葉先生の指導を得て、昭和34年の夏、彼と二人で北星丸に乗船させていただき、オホーツク海の海洋調査に参加した。当時の海洋観測は現在のCTDなどで行うのと違って、ナンセン採水器を用い、転倒温度計を取り付けて海に下ろし、採水し、水温を読み取る方法で、大変労力のいる作業であったが一ヶ月にわたり、二人でよく頑張った思い出がある。その後、私は捕鯨に行き、彼とは同じ水産でも歩いた道は異なっていたが、秋葉先生の退官祝賀会などで一緒にしたりして旧交を温めていたが、最後に同じ職場に勤務するとは、なにかの縁があったのかと感じざるを得ない。

最後に、以前より久保さんから俳句をやれと言われていたこともあり、平成25年10月から手稲句会にお世話になることにしたが、残念ながら句会で一緒にすることはできなかつた。平成25年12月14日新宿御苑で吟行と句会が開かれ、この日の手稲句会は保治良さん(久保さんの雅号)の追悼句会とされた。病床に居ながら詠んだ5句のなかから彼の辞世の句として相応しいと思う一句を選ぶことにした結果、己が道と見極めた凛とした如何にも保治良さんらしい一句として大勢の仲間から選句された辞世の句を最後に掲載したい。

「落葉踏み 真っ直ぐな道 ただ一人」 合掌

函館市国際水産・海洋総合研究センター開所式

齊藤 誠一(昭50ギ)



写真1 函館市国際水産・海洋総合研究センター 全景

2014年6月2日に、函館市国際水産・海洋総合研究センター(函館市弁天町20-5:旧函館ドック跡地)(写真1)の開所式が、北海道大学山口佳三総長をはじめ関係者約300人が出席のもとに、同センターで開かれました。工藤壽樹市長、高橋はるみ知事がテープカットを行いました(写真2)。

本センターは、入居型の貸研究施設として、学術試験研究機関や民間企業が入居できる研究室を備えています。現在、北海道大学、公立はこだて未来大学、道総研函館水産試験場の学官の研究機関をはじめ、民間6社が入居しています(写真3)。

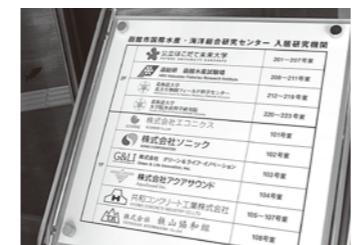


写真3
センター入居研究機関表示パネル



写真4
センター内から見た専用岸壁に係留されたおしょろ丸V世



写真2 テープカット風景
(左から3番目が工藤函館市長、4番目が高橋北海道知事)

隣接する岸壁には北大水産学部附属練習船おしょろ丸(写真4)など調査研究船が直接接岸でき、また、函館港外から直接採取した海水を水槽実験に使用することができるなど、水産・海洋分野の研究開発や、産学官連携の拠点として活用することを目指しています。さらに、来館者が自由に見学できる大型の実験水槽や、函館港が一望できる展望ロビー、海水を使用できる実習室、学会開催を想定した会議室なども備えています。

平成15年に生まれたのが「函館国際水産・海洋都市構想」ですが、これは産学官が連携してマリンサイエンス分野で世界をリードする研究成果や革新技術を生み出し、雇用の創出と産業経済の活性化に結びつけるのがねらいです。本センターは、まさに、「函館国際水産・海洋都市構想」のシンボルとしての役割を担います。このセンターが箱もので終わらないように、このセンターの発展に、今後とも同窓の皆さまのご指導・ご協力をお願いいたします。

第94回 北水同窓会定期総会報告

「忍路丸」という船名と水産旗の発案者「遠藤吉三郎」先生の墓参

我妻 雅夫(昭52ゾ)



遠藤吉三郎先生

第94回北水同窓会定期総会の翌日、平成26年8月3日(日)10:00から、遠藤吉三郎先生のお墓参りを行いました。先生のお墓は、石川啄木一族の墓の手前100m程、山側の高野寺墓域(函館市住吉町)内にあります。

墓参には、横山清同窓会長(昭35エ)・久子様(昭35ゾ)ご夫妻はじめ、安井肇学部長(昭55ゾ)、高木省吾おしょろ丸船長(昭58ギ)、志賀直信北水同窓会函館支部長(昭44ゾ)ほか同窓生20数名と、三ツ石茂之函館水産高校長らが集い、真夏の日差し強い中、高野寺ご住職のお導きにより無事墓参を行いました。

同窓会長ご夫妻は10時の飛行機をキャンセルしてご参列してくださいました。会長は墓前で、「今こそ学部の歴史をひもとき、長く先人の業績を語り継ぎ、それに感謝し、学部の一層の発展に努めましょう」とご挨拶なさいました。

安井学部長は「新しい“おしょろ丸”の船出の時に、このような機会を持てて良かった。遠藤先生の精神をもう一度胸に刻みながらお祈りした」と函館新聞への取材に答えました。

遠藤先生は明治7年、新潟県に生まれ、ご尊父の仕事の関係で函館に育ち、公立弥生小学校に学び、次いで函館商業学校(現函館商業高校)を卒業なさり、一旦、会社勤めの後、旧制第二高等学校入学後、東京帝國大学に進学しました。卒業後、札幌農学校水産学科の教授となりました。

先生は、海藻学での業績はもとより、森鷗外との翻訳に関する論争、二本ストック式スキー術の本邦初導入など多岐にわたる才能を發揮なさいました。

中でもスキーに関しては、札幌農学校の学生はもとより、同僚だった小麦研究の先覚“木原 均”先生にスキーの醍醐味を伝えましたことは、その後の木原先生の日本スキー界でのご活躍のきっかけを作ったといえます。外国スキー界の実情を実地に見て、文献を読む大切さを遠藤先生は木原先生に伝授なさいました。その成果のひとつが、札幌冬季オリンピック70m級ジャンプ、日の丸飛行隊の金銀銅獲得です。木原先生が全日本

スキー連盟(SAJ)会長として、その後、2回の冬季オリンピック日本代表を歴任する道を遠藤先生が敷いたといっても過言ではないでしょう。

先生は大正10年3月14日、肺結核で逝去なさいました(享年47歳)。本年は先生の生誕140周年に当たり、先生が江差追分の歌詞から“忍路丸”的名を発案なさつて、その名を受け継いだ新船“おしょろ丸”(V世)が北大に引き渡された記念すべき年に、先生の墓参を挙行できたことは誠に時宜を得た企画だったといえます。

当日は、北水応援団長が酷暑の中、学生服姿で遠藤先生が考案なさつた“水産旗”を高々と捧げ持って参拝者を谷地頭電停に迎えました。

墓前での読経も終わり、同窓会長から「先ほどご住職とお話ししていましたら、ご住職の奥様のお母様方のおじいさまは、何と“おしょろ丸”的乗組員であったとお聞きしました」というお話を披露され、参列者一同、奇しき縁を感じる場面がありました。

先生発案の水産旗がはためく下、墓前に“おしょろ丸”(V世)の就役報告は、遠藤先生にとって何よりの供養になったと思います。

最後に、墓参実現に当たって、発案者である羽田野六男先生(昭31セ)の情熱溢れる行動力と、先生をサポートした鶴沼ワカ様(北水同窓会特別会員)のご尽力を記して本稿を閉じます。



北水旗が掲げられる中、
読経が行われた



墓参会にて(敬称略) 前列左から
鶴沼ワカ(特)、金子哲郎(昭54食)、羽田野六男(昭31セ)、
横山清会長(昭35エ)、安井肇学部長(昭55ゾ)、
高木省吾おしょろ丸船長(昭58ギ)、水田浩之(昭61ゾ)
後列左から
志賀直信(昭44ゾ)、今野伸(昭62食)、西川正一(昭56ギ)、
横山久子(昭35ゾ)、藤本貴史(平12生)、佐藤雅己(昭62化)、
川合祐史(昭55食)、尾島孝男(昭54化)、川越力(平12生)

北水同窓会総会の報告

- 開催日時: 平成26年8月2日
- 会場: 五島軒本店

北水同窓会の第I部は、8月2日午後1時から竣工なつたおしょろ丸V世の見学会で幕が開かれました。この夏一番の炎天にもかかわらず150名以上の同窓生が詰めかけました。参加者は、旧函館ドック跡地に6月オープンした函館市国際水産・海洋総合研究センターの専用岸壁に係留され、万国旗で彩られた新造船を高木省吾船長(昭58ギ)はじめ士官の方々の案内を受け、心をワクワクさせながら見学しました。高性能の装備でIV世よりもひとまわり大きくなり、各種観測機器の充実したおしょろ丸V世の更なる活躍に期待が膨らみました。

引き続き同センター大会議室において、窪寺恒己氏(昭50ゾ)による「ダイオウイカ、奇跡の遭遇-最新技術で迫る深海の世界-」の題目で一般講演会が開催されました。同窓生130名を含む約220名の来場があり、聴衆はエピソードを交えた講師のお話に興味津々、世界で初めてダイオウイカの生態を捉えた映像に見入っていました。この快挙は外国研究者とのすばらしいチームワークで成し遂げられたことを知りました。

第II部は、会場を函館の老舗レストラン・五島軒本店に移し、函館支部総会並びに第94回定期総会が開催されました。定期総会は、午後5時半から函館支部事務局長西川正一(昭56ギ)さんの司会のもと、尾島孝男本部副幹事長(昭54化)の開会の辞で始まり、議長には函館支部長志賀直信(昭44ゾ)を選出し、議事にはいました。齊藤誠一幹事長(昭50ギ)ほか各幹事からの報告・説明のあと、各議案はすべて承認され、終了しました。

総会終了後、西川正一さんの司会のもと、志賀函館支部長の歓迎の挨拶、横山清同窓会会長(昭35エ)の挨拶、安井肇名誉会長(昭55ゾ)の挨拶で懇親会が始まりました。つづいて、来賓の三上隆北海道大学副学長からご挨拶頂き、羽田野六男(昭31セ)函館支部顧問の乾杯の音頭で開宴となりました。しばしの歓談の後、北水オーケストラによる演奏や水産学部現役学生の所属サークル(ラグビー部・サッカー部・スケート部・野球部・北水オーケストラ・応援団)の現況報告がなされました。その間にも世代を超えた同窓生の交流が活

発に行われ、各円卓で盛り上がっていました。最後に、応援団の音頭のもと、全員肩を組み「都ぞ弥生」「北晨寮逍遙歌」「水産放浪歌」を齊唱し、一体感がいっそう高まりました。来年の総会開催地札幌の長沼昭夫(昭47ギ)支部長の乾杯の音頭で、名残尽きない祝宴も午後8時45分には終わりました。

函館での総会は平成19年以降7年ぶりの開催でした。函館支部の幹事会メンバーは齊藤幹事長以下本部幹事会と連携を密にして“函館ならでは”的総会を準備させていただきました(内輪で恐縮ですが、事務局の函館水産高校の同窓が心をこめて準備してくださったことに感謝します)。懇親会には京滋支部の関岡滋恭大先輩(昭17ヨ)から平成21年卒の安倍健一郎さんまで、じつに約70歳の年齢幅の同窓諸兄姉が、遠くは海外(オーストラリア・タスマニア)、九州からも参集され、学生会員13名に会員のご家族9名を加え163名が参加されることになります。遠路はるばるお越し下さいました皆さま、ご多忙のなか日程を調整し駆けつけてくださいました皆さま、心より感謝申し上げます。これも新おしょろ丸への求心力と窪寺さんの講演会の相乗効果と思っていました。誠に嬉しいことでした。

参加者で一杯になった懇親会会場の外では、廊下に机を並べておしょろ丸グッズ(帽子、ファイルケース)、おしょろ丸カクテルの販売もありました。グッズ、カクテルをそれぞれ用意して下さった長沼昭夫さん(昭47ギ)、藤岡俊吾さん(平9ギ)、また自社製造の食品を参加者のお土産に提供して下さった金子哲郎さん(昭54食)にこの場を借りて、謹んでお礼申し上げます。

横山会長の挨拶のなかにあったお言葉「(北水)同窓会が強いと大学(水産学部)が強い」が心に残っています。同窓会として大学に、同窓生に何ができるのか、何を貢献できるか常に考えていきたいと思います。

なお、羽田野支部顧問の発案の遠藤吉三郎先生の墓参も、翌3日に横山会長、安井名誉会長の列席のもと、昔日の先生に思いを馳せながら偲ぶことができました。遠藤先生は北大水産専門部時代の水産植物学の教授で、「忍路丸」⇒「おしょろ丸」名の発案、水産旗のデザインをされました。

皆さま、来年は札幌でまたお会いいたしましょう。
函館支部長 志賀 直信(昭44ゾ)

第94回 北水同窓会定期総会報告

式次第

定期総会

- 開会の辞……………副幹事長 尾島孝男(昭54化)
- 議長選出……………函館支部長 志賀直信(昭44ゾ)

議案第1号 平成25年度事業経過報告および会計決算報告

……………本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)他

議案第2号 平成26年度事業計画および予算案

……………本部幹事長 齊藤誠一(昭50ギ)他

その他

- 閉会の辞……………副幹事長 尾島孝男(昭54化)

懇親会

- 司会 函館支部事務局長 西川正一(昭56ギ)
- 歓迎のあいさつ……………函館支部長 志賀直信(昭44ゾ)
- 同窓会長あいさつ……………横山清同窓会会长(昭35エ)
- 名誉会長あいさつ……………安井肇名誉会長(昭55ゾ)
- 来賓あいさつ……………三上隆北海道大学副学長
- 乾杯の音頭……………函館支部顧問 羽田野六男(昭31セ)

歓談

- 北水オーケストラ演奏
- 水産学部サークル現況報告
ラグビー部・サッカー部・スケート部・野球部・北水オーケストラ・応援団
- 同窓生飛び入りスピーチコーナー
- 「都ぞ弥生」「北晨寮逍遙歌」「水産放浪歌」齊唱
- 乾杯の音頭……………長沼昭夫(昭47ギ)



おしょろ丸V世公開



講演会



窪寺恒己氏(昭50ゾ)



函館支部長挨拶



会長挨拶

出席者

〈全国各支部会員〉

関岡 滋恭(昭17ヨ)	京滋
伊丹 宏三(昭23ゾ)	兵庫県
前田 辰昭(昭26エ)	札幌
横田二美雄(昭31エ)	福岡県
吉田 弘(昭31ゾ)	札幌
服部 孝雄(昭33セ)	静岡県
西山 恒夫(昭34ゾ)	札幌
細萱 安彦(昭35エ)	神奈川県
横山 清(昭35エ)	会長
横山 久子(昭35ゾ)	札幌
鈴木 賢一(昭36セ)	副会長
深谷 熱(昭36セ)	愛知県
大野 正浩(昭36セ)	大阪府
真嶋 俊平(昭41ギ)	神奈川県
宮島 英雄(昭42ギ)	新潟県
藤井 洋治(昭42ギ)	愛知県
武川 昌之(昭42エ)	宮城県
田中 利勝(昭42エ)	東京
斎藤 弘(昭42ゾ)	札幌
佐藤 勝美(昭44エ)	札幌
山下 明則(昭44エ)	札幌
重田 親司(昭44エ)	東京
藤井 真一(昭44エ)	東京
入江 和彦(昭45ギ)	大阪府
福地 光男(昭45ゾ)	東京
木嶋 武郎(昭45エ)	静岡県
上田 稔(昭45化)	大阪府
及川 利幸(昭47ギ)	札幌
長沼 昭夫(昭47ギ)	札幌支部長
穂積 明(昭47ギ)	釧路
斎藤 和敏(昭47ゾ)	札幌
水戸 啓一(昭47ゾ)	千葉県
植松 光夫(昭50化)	東京
村田 秀樹(昭50化)	東京
山本 雅照(昭50ゾ)	大阪府
田中 文夫(昭50食)	大阪府支部長
室井 智子(昭50食)	大阪府
山本由美子(昭50食)	大阪府
田中 章夫(昭51化)	東京
浜谷 一郎(昭51化)	東京
大村 泰治(昭51食)	大阪府
吉田 英雄(昭51ゾ)	札幌
末岡 順(昭51ギ)	札幌
浜島 清剛(昭51ギ)	札幌
糸井 秀之(昭51ギ)	室蘭
宇佐美勝義(昭51ギ)	東京
表 芳弘(昭52ギ)	余市
山田 康次(昭52ギ)	余市

石山 和行(昭52ギ)	網走
神保 重孝(昭54ギ)	愛知県
金子 哲郎(昭54食)	宮城県
小林 次郎(昭55ゾ)	千葉県
高橋 誠(昭55食)	東京
橋本 浩典(昭59ギ)	東京
小山内雄彦(昭60ギ)	札幌
川口 創(昭60ゾ)	海外
藤井 英嘉(昭61ギ)	大阪府
大川 真一(昭61化)	札幌
中田 邦彦(昭61食)	大阪府
佐藤 雅己(昭62化)	札幌
高橋 広樹(昭62ギ)	札幌
松尾 直人(昭62ギ)	札幌
郷 雄司(昭62ゾ)	札幌
境 磨(平14生)	静岡県
福田 覚(平15博増)	青森
片倉 靖次(平16博環)	紋別
岩波 秀晃(平19海)	東京
須田 健太(平19生修)	神奈川県
高原 英生(平20生修)	京滋
安倍健一郎(平21資)	静岡県

〈講演〉

窪寺 恒己(昭50ゾ) 茨城県

〈本部〉

安井 肇(昭55ゾ)	名誉会長
齊藤 誠一(昭50ギ)	幹事長
尾島 孝男(昭54化)	副幹事長
都木 靖彰(昭59ゾ)	庶務部
水田 浩之(昭61ゾ)	庶務部
藤本 貴史(平12生)	会計部
田中 啓之(平元化)	編集部
井上 晶(平5化)	編集部
川合 祐史(昭55食)	組織部
三上 隆(連合同窓会幹事)	副学長

麦谷 泰雄(昭37ゾ)
安間 元(昭38エ)

米田国三郎(昭40エ)

岸本 富男(昭42ギ)

山本勝太郎(昭42ギ)

長繩 裕(昭42エ)

河原 武則(昭43エ)

中山 豊光(昭43ギ)

水戸 孝夫(昭43ギ)

古谷 真水(昭44食)

志賀 直信(昭44ゾ)

高橋 豊美(昭44エ)

伊藤 悅郎(昭45ギ)

三佐川 稔(昭45ギ)

原 彰彦(昭46ゾ)

高橋 玄夫(昭46化)

桜井 泰憲(昭48ゾ)

佐々木俊雄(昭49ゾ)

高橋是太郎(昭50食)

飯田真希恵(昭51化)

増田 宣泰(昭51化)

飯田 浩二(昭51ギ)

高野 和則(昭32ゾ)

米田 義昭(昭34セ)

梅田 芳昭(昭35ゾ)

我妻 雅夫(昭52ゾ)

鵜沼 ワカ(特別会員)

梶原 善之(昭53ギ)	事務局長
高橋 正士(昭53ギ)	
山下 成治(昭54ギ)	
木村 暢夫(昭55ギ)	
西川 正一(昭56ギ)	
工藤 繁(昭57化)	
桐山 智(昭58ギ)	
高木 省吾(昭58ギ)	
横山 信一(昭58ギ)	
中村 善幸(昭62ギ)	
今野 伸(昭62食)	
高津 哲也(昭63ギ)	
大山 知幸(平元化)	支部事務局
宮崎 永司(平元ギ)	支部事務局
山本 洋一(平2ギ)	支部幹事
石田 利夫(平7ギ)	支部事務局
山口 篤(平6ゾ)	
星澤 克幸(平10化)	支部事務局
阿部 拓三(平11ギ)	
星 直樹(平11ギ)	
大和田真紀(平13海)	
鶴岡 理(平15生)	支部事務副局長
岡田 直子(平17海)	支部事務局
岩岬 耕平(平21シ)	支部事務局

〈函館支部会員〉

寺地 潔(昭28ゾ)	
金石 和哉(昭30セ)	
富田 幸二(昭30セ)	
羽田野六男(昭31セ)	
箕田 嵩(昭31ゾ)	
山崎 文雄(昭33ゾ)	
高野 和則(昭32ゾ)	
米田 義昭(昭34セ)	
梅田 芳昭(昭35ゾ)	幹事
小祝 良介(昭36エ)	幹事長



三上副学長挨拶
相談役による乾杯



羽田野六男(昭31セ)
水産学部サークル現況報告



都ぞ弥生齊唱



懇親会にて

第94回 北水同窓会定期総会報告

■総会次第

1. 開会の辞 副幹事長 尾島 孝男(昭54化)

2. 議長選出

3. 議案第1号

平成25年度事業経過報告および会計決算報告

(1)一般経過報告

幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)

(2)庶務部報告(資料1)

庶務部 水田 浩之(昭61グ)

(3)編集部報告(資料2)

編集部 田中 啓之(平元化)

(4)組織部報告(資料3)

組織部 川合 祐史(昭55食)

(5)会計部報告(資料4)

会計部 藤本 貴史(平12生)

(6)会計監査報告

監事 増田 宣泰(昭51化)

4. 議案第2号

平成26年度事業計画および予算案

(1)平成26年度役員改選案(資料5)

庶務部 水田 浩之(昭61グ)

(2)第95回(平成26年度)定期総会開催地(札幌)

について 幹事長 齊藤 誠一(昭50ギ)

(3)平成26年度予算案

1.会計部予算案(資料6)

会計部 藤本 貴史(平12生)

2.編集部予算案(資料7)

編集部 田中 啓之(平元化)

3.組織部予算案(資料8)

組織部 川合 祐史(昭55食)

5. その他

6.閉会の辞

副幹事長 尾島 孝男(昭54化)

■平成25年度 庶務部報告(資料1)

1) 新入会員数

海洋生物科学科	56名
海洋資源科学科	42名
増殖生命科学科	56名
資源機能化学科	49名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	8名
博士	5名
合計	216名

■平成25年度 編集部報告

(親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	301号	平25年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	302号	平26年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計		64	17,000	2,000,000	
決算	301号	平25年8月30日	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	966,577	※1
	302号	平26年3月4日	本誌カラー 24頁 (内カラー9頁)	8,500	868,402	※1
	合計		56	17,000	1,834,979	

*1 印刷会社:南三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

■平成25年度 組織部報告

(名簿会計)(資料3)

項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より繰入 名簿広告料 受取利息	1,699,569 1,200,000 2,000,000 332	名簿積立金 未収3件 85,000円
	合計	4,899,569	4,389,901
支出	名簿印刷費 通信運搬費 次年度繰越金	3,500,000 280,000 1,119,569	3,410,820 280,000 699,081
	合計	4,899,569	4,389,901

(繰越金の内訳 銀行預金699,081円)

3) 平成25年度 特別会計決算報告

項目	予算額	決算額
収入	前年度繰越金 ゆうちょ銀行利息 定期預金(マリンバンク)利息	21,244,608 136 2,791
	合計	21,244,608
		21,247,535
支出	一般会計へ 次年度繰越金	2,000,000 19,244,608
	合計	21,244,608
		21,247,535

○平成25年度 特別会計資産内容

項目	資産額
郵便定期貯金1口 ゆうちょ銀行預金 銀行定期預金(マリンバンク)1口	7,204,000 1,114,519 10,929,016
合計	19,247,535

■会計監査報告

北水同窓会の平成25年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

- 監査対象期間 自 平成25年3月16日 至 平成26年3月15日
- 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
- 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

平成26年3月19日

監事 増田宣泰

監事 矢部衛

2) 平成25年度 OA機器整備費(積立)決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金 一般会計より積立 受取利息	150,055 50,000 31	150,055 50,000 31	
	合計	200,055	200,086	
支出	次年度繰越金	200,055	200,086	
	合計	200,055	200,086	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 200,086円)

第94回 北水同窓会定期総会報告

■平成26年度 役員改選案

(資料5) [○は新任]

会長	宗原弘幸(昭61修漁)	池田勉(昭43ゾ)	学外幹事	(石巻) 小池幾世(昭53ギ)	(長崎) ○星野浩一(平元ゾ)
横山清(昭35エ)	高津哲也(〃63ギ)	仲谷宏(〃43ゾ)	阿部純也(昭58ギ)	(気仙沼) 千葉敏朗(〃46ゾ)	(熊本) 安田広光(昭58食)
名誉会長	安藤靖浩(〃63化)	高橋豊美(〃44エ)	横山信一(〃58ギ)	(福島) 高越哲男(〃44ゾ)	(大分) 武田晴美(〃56ギ)
○安井肇(〃55ゾ)	今村央(〃63ゾ)	工藤昭彦(〃44ゾ)	佐藤直孝(〃58食)	(茨城) ○山崎耿二郎(〃40ゾ)	(宮崎) 児玉康則(〃50ギ)
副会長	監事	志賀直信(〃44ゾ)	吉岡武也(〃60食)	(栃木) 大友時夫(〃44ゾ)	(鹿児島) 松岡達郎(〃52ギ)
鈴木賢一(〃36セ)	増田宣泰(〃51化)	山内皓平(〃44ゾ)	今野伸(〃62食)	(埼玉) 吉川晴二(〃41ゾ)	(沖縄) ○渡辺利明(〃52ゾ)
吉野生壯(〃37ゾ)	○清水晋(〃53ギ)	伊藤悦郎(〃45ギ)	宮崎永司(平元ギ)	(館山) 安田健治(〃56食)	(北米地区連絡所・北米エルム会内)
樋口達夫(〃50食)	学外理事	三浦汀介(〃45ギ)	柳町琢也(〃4化)	(銚子) 山口隆夫(〃53化)	真板洋輔(〃32エ)
代表理事	山内彬一(〃26ギ)	三佐川稔(〃45ギ)	阿部慶太(〃5化)	(千葉) 萬上聰一郎(〃42ゾ)	(韓国) ○李春雨(平3博漁)
桜井泰憲(〃48ゾ)	中村哲也(〃28セ)	築田満(〃45化)		(東京) 未定	
学内理事	寺地潔(〃28ゾ)	後藤晃(〃45ゾ)		(東京) 菊本肇(〃40ギ)	
今野久仁彦(〃49食)	大島栄一(〃30エ)	原彰彦(〃46ゾ)	地方理事	(神奈川) 金庭正樹(〃57化)	平成26年度 本部常任幹事
齊藤誠一(〃50ギ)	富田幸二(〃30セ)	中林重雄(〃47ギ)	(稚内) 風無成一(〃41ギ)	(三崎) 寺本紀久(〃39セ)	直通電話番号
高橋是太郎(〃50食)	服部保次郎(〃31エ)	目黒敏美(〃47ギ)	(留萌) 祐川正幸(〃48ゾ)	(新潟) 宮島英雄(〃42ギ)	市外局番(0138)
板橋豊(〃50化)	羽田野六男(〃31セ)	近江政斗(〃47食)	(紋別) 片岡靖(〃42ゾ)	(長野) 小野里坦(〃37ゾ)	
門谷茂(〃50化)	箕田嵩(〃31ゾ)	吉水守(〃47食)	(網走) ○石山和行(〃52ギ)	(静岡) 三ツ野勝広(〃44食)	
飯田浩二(〃51ギ)	高野和則(〃32ゾ)	黒瀬道則(〃47ゾ)	(根室) ○吉川正基(〃52ゾ)	(富山) 宮崎護(〃41セ)	
平石智徳(〃51ギ)	高島優(〃33エ)	土谷俊一(〃48ギ)	(厚岸) 未定	(石川) 未定	
荒井克俊(〃51ゾ)	山崎文雄(〃33ゾ)	坂本幸造(〃48食)	(釧路) 清水富士雄(〃36エ)	(福井) 国田裕(〃45食)	
矢部衛(〃51ゾ)	菊地英樹(〃34エ)	吉田正人(〃48ゾ)	(旭川) 齊藤隆司(〃46化)	(愛知) 藤井洋治(〃42ギ)	
中谷敏邦(〃52ギ)	米田義昭(〃34セ)	山口秀一(〃49ギ)	(十勝) 佐藤裕(〃24セ)	(京都) 近藤忠裕(〃54化)	
梶原善之(〃53ギ)	梨本勝昭(〃36ギ)	二瓶幹雄(〃50食)	(苦小牧) 木村実(〃48食)	(滋賀) 澤田宣雄(〃57ゾ)	
宮澤晴彦(〃53ギ)	小祝良介(〃36エ)	上戸慶一(〃50化)	(室蘭) 矢島清孝(〃45食)	(三重) 未定	
山下成治(〃54ギ)	大割了(〃37ギ)	長谷川栄治(〃52食)	(札幌) 林和明(〃38ゾ)	(大阪) 田中丈夫(〃50食)	
尾島孝男(〃54化)	繪面良男(〃37セ)	上野孝雄(〃53ギ)	(札幌) 真田篤弘(〃43化)	(兵庫) 中岸明彦(平元ギ)	
木村暢夫(〃55ギ)	河村章人(〃37ゾ)	○蛇沼俊二(〃53ギ)	(札幌) 村井茂(〃45ゾ)	(和歌山) ○丸山清重(昭55ゾ)	
川合祐史(〃55食)	古井恒弘(〃37ゾ)	上野久仁夫(〃53化)	(小樽) ○村松裕史(〃54食)	(鳥取) 山本栄一(〃52ゾ)	
足立伸次(〃55ゾ)	麦谷泰雄(〃37ゾ)	備前悟(〃53化)	(余市) 川村一廣(〃33ゾ)	(岡山) 鈴木伸一(〃50ギ)	
山羽悦郎(〃55ゾ)	安間元(〃38エ)	広崎淳一(〃55ギ)	(青森) 佐藤立治(〃36エ)	(広島) 森岡泰啓(〃38ゾ)	
工藤勲(〃57化)	天下井清(〃39エ)	正木悦郎(〃55ギ)	(八戸) 山内寿一(〃40セ)	(島根) 中村幹雄(〃42ゾ)	
関秀司(〃57化)	菅野泰次(〃39ゾ)	宮岡秀昌(〃55ゾ)	(秋田) ○遠藤実(〃48ゾ)	(関門) 萬年信一(〃37エ)	
高木省吾(〃58ギ)	小越征夫(〃40エ)	西川正一(〃56ギ)	(村山) 山田彰一(〃40ゾ)	(香川) 小野知足(〃34ゾ)	
都木靖彰(〃59ゾ)	木村昇(〃40セ)	種田貴司(〃56食)	(庄内) 村井太郎(〃50ギ)	(愛媛) 桑原彰三(〃53ゾ)	
岸村栄毅(〃60化)	猪上徳雄(〃41セ)	藤田公美(〃57ギ)	(盛岡) 奥山勇作(〃54ゾ)	(徳島) 小黒美樹(〃23セ)	
向井徹(〃61ギ)	上平幸好(〃41ゾ)	小林良一(〃57食)	(宮古) 和田秀雄(〃60ギ)	(高知) 蒲原幸男(〃49ギ)	
亀井佳彦(〃61ギ)	岸本富男(〃42ギ)	佐藤友則(〃57食)	(釜石) 高橋禎(〃56ゾ)	(福岡) 未定	
水田浩之(〃61ゾ)	山本勝太郎(〃42ギ)	嶋田隆司(〃57化)	(仙台) 佐藤秀雄(〃42ギ)	(佐賀) 未定	

第94回 北水同窓会定期総会報告

■平成26年度 会計部予算案(資料6)

1) 平成26年度 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金 会親潮広告料 雜収入	2,601,472 7,200,000 180,000 100,000	1,800名見込み
	合計	10,081,472	
	親潮印刷費 通信・運搬費 旅費 組織強化費 札幌ホームカミングデー経費 函館ホームカミングデー経費 備品費 消耗品費 議費 会費 振替手数料 事務嘱託費 人件費 H P維持費 雜費 OA機器整備費 名簿会計へ予備費	2,000,000 1,600,000 300,000 900,000 300,000 0 0 250,000 30,000 160,000 2,250,000 80,000 240,000 20,000 50,000 1,200,000 701,472	(資料7) 親潮発送費(2回分)含む 札幌開催 ※ 積立 (資料8)
	合計	10,081,472	

※総会補助30万円、本部役員会補助10万円、卒業祝賀会補助10万円を含む。

■平成26年度 編集部予算案(親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日 (締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
303号	平26年8月末 (7月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
304号	平27年2月末 (1月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計	64	17,000	2,000,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

2) 平成26年度 OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金 一般会計より積立	200,086 50,000
	合計	250,086
支出	次年度繰越金	250,086
	合計	250,086

■平成26年度 組織部予算案(名簿会計)(資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金 広告未収分 一般会計より繰入	699,081 85,000 1,200,000	名簿積立金
	合計	1,984,081	
支出	次年度繰越金	1,984,081	
	合計	1,984,081	

3) 平成26年度 特別会計予算案

	項目	予算額
収入	前年度繰越金	19,247,535
	合計	19,247,535
支出	次年度繰越金	19,247,535
	合計	19,247,535

○平成26年度 特別会計資産内容

項目	資産額
郵便定額貯金1口 ゆうちょ銀行預金 銀行定期預金 (マリンバンク)1口	7,204,000 1,114,519 10,929,016
合計	19,247,535

樋口 達夫氏 (昭50食) オバマ米国大統領 と固い握手

高橋 是太郎(昭50食)

2011年、オバマ大統領は「Select USA」という米国への投資を促進するための組織を立ち上げました。この春(5月19日)、米国大使館が主催し、日本商工会議所、JETRO、中小企業基盤整備機構の共催で、「Select USA 2014 in Japan」セミナーが東京商工会議所国際会議場で開催され、樋口達夫(昭50食)大塚ホールディングス社長がパネリストの一人として招待されました。これは樋口社長の長年にわたる米国への投資と雇用拡大による米国への貢献が高く評価されたためです。パネルディスカッションでは大塚の米国への進出の経緯、現状、体験等の話がなされました。

それに先立つ3月3日、樋口社長はキックオフ行事の「Enhanced Select USA 2014 in Japan」にキャロライン・ケネディー大使の招へいを受け



て参加、さらに4月24日の「Select USA 2014 CEO Roundtable」では樋口社長の他、日本経団連、日本商工会議所、経済同友会のトップらが招かれ、米国マイケル・フロマン通商代表らの司会で「投資と競争力」をテーマにディスカッションが行われました。写真はその際に樋口社長が来場したオバマ大統領と握手を交わしている時のものです。

これらのこととは、同社にとって勿論、北水同窓会としても、大変名誉なことです。今後の益々のご発展を期待致します。

北大水産学部S32年卒同期会 宮城大会

杉田 哲夫(昭32工)



2年に一回の全国同期会は5月中旬松島海岸のホテル壮観に24名が参集、80歳の長寿を寿ぐこの会は2年前の琵琶湖畔での会で衆議一決、大災害あと東北で“やろう”であった。本人か連れの細君の体調の都合で参集出来なかった者数名居り超高齢者の現実は悲喜交々、然るに今回はこの会が始まって20年ほど経つが初めて奥さんを含め4名の女性にご参加頂いて、華やぐ(?)雰囲気で、息災を歓びあつた。

2日目。バスで石巻周辺を見た。大地震と大津波の災害の激しさを見た。災害の後の復旧の遅々たる現実を見た。Mediaでしか見る事が適わなかった現場を涙して見る勇気が求められた。石巻の小池産業㈱社長小池さん(昭53ギ)の説明で津波の恐怖とそれによる破壊の物凄さ、6メートル余の巨大さを知り恐怖を実感。松島湾を遊覧、案内の女性は「私は海に居て、この船に乗っていて助かったが陸に居た家族は無抵抗で全滅した」と、出る涙をこらえる勇気は誰一人もていなかつた。

塩釜から仙台空港まで札幌へ帰る仲間を送ってバスは走った。塩害が原因と言うが広大な真っ平らな地面は果てることなく目に入った。半世紀も前に北米の荒野をドライブした時経験した風景を思い出した。為す術もない自然の悪戯だ、文明と科学の頂点に達したであろう現在の人類ですら「対処」「解決」が適わないのだろうか。

ホテル壮観の早晩、静かに横たわる朝もやが、立体的な黄金色に一瞬にして変貌する。茫洋とした海

が光に反射する、こんな光景を見てくれた。芭蕉は黄金の峰の海、と表現しているがこんな瞬間を「見た」のではないか。なんだかとても嬉しかった瞬間だった。

2年に1回の32会全国会を毎年やろう、の全員の提案で次回は東京となった。幹事役の石巻渡波の石田君、仙台の安藤君、立案計画実行完璧でした。有難う。

談、2時間で終了。その後、疲れて休むものもいましたが、2次会に五稜郭へカラオケに行ったものは盛り上がったようで、カラオケの先生でもある阿部君の初めて聴く歌声に流石だと感想をもらしていました。実は阿部君は着いたとき、宴会中もかなり体調を崩していたのですが1曲歌う毎に回復、しまいには完全に顔色もすっかり良くなつたそうです。健康にはカラオケは本当に良さそうです。他にインシュタインの舌出しのトレも。これは谷口君が推奨していたのですが。

翌日は2台の車で、水産学部と五稜郭公園へ。すっかり変わった校舎をぐるりと一周しながら、この辺に何があったとか、当時は余り、いやかなり眞面目に勉強しなかつた思い出話にふけっていました。五稜郭公園でも昔の思い出話。タワーに登り、出来立ての函館奉行などを見て、昼前に解散となりました。

次回は、東京という意見もありましたが、やっぱり札幌で2年後に開くことで、また私がお手伝いすることになりました。今度は10月か11月の農作業などに忙しくない頃と考えていますので、意見がありましたら前もって希望を出して頂き、暇とお金?は沢山あると思いますので、是非次回は全員に参加して頂き、まだまだ健康なところを披露して欲しいと思います。

なお、これは私見にもなりますが、他の学部の方との合同でも我々の同期会ができたらと思います。賛同されまとめられる方がいましたら、下記の伊藤迄連絡頂けたらと思います。個人での参加でも結構です。

伊藤廸男 TEL 011-885-4525
メール wtxrm989@ybb.ne.jp

第2回昭和44年卒北大水産学部漁業学科同期会 思い出に耽る

伊藤 延男(昭44ギ)



左から横野、太田、田中、中島、大場、谷口、市川、阿部、伊藤

5月17日、函館湯の川温泉の平成館海羊亭で2年ぶりの同期会を行った。案内に対し25名ほどの同期から返事をもらえたが、まだ忙しく仕事をしていたり、体調や諸事情などで参加できないものもいて、今回は9名の参加でした。でも、鹿児島からの市川君、四日市からの谷口君、東京の大場君、千葉の横野君が道外から参加してくれました。

今回は思い出の地と言うことで函館にし、同期に函館在はいないのですが、函館に詳しい中島君に、豪華な宴会と宿泊費込みで何と11,000円と言う格安で手配してもらいました。

10階にあるお風呂からは、函館山、五稜郭タワー、やすぐそばの飛行場などが一望でき、素晴らしい眺めで、露天風呂は400年の歴史ある現在唯一の靈泉赤湯、名湯赤湯。私は宴会前、寝る前と朝とで3回も入ってきました。

宴会は昔の思い出話や近況報告など賑やかに歓

賀市の蓬莱客館「あみや」において、おしょろ丸歓迎会を開催しました。

5年ぶりの開催でしたが、おしょろ丸の高木船長をはじめ水産学部の先生方、そして京滋支部からもご参加を得て総勢18名での歓迎会となり、先ずは出席者全員で記念写真を撮影しました。

歓迎会冒頭の物故者黙祷では、この3年間に4名もの会員を失つたこともあり、参加者一同心から冥福を祈りました。

歓迎会は山本 嶽支部長挨拶(メッセージ代読)、高木省吾おしょろ丸船長挨拶に続き、村 裕先輩(昭31ギ)の乾杯の音頭で開宴しました。

久万教授から水産学部の近況報告、さらに高木船長からは新おしょろ丸の建造状況についての詳しい報告があり、一同新おしょろ丸の竣工間近に期待を膨らませていました。続いて、近藤忠裕京滋支部長(昭54化)から京滋支部の近況が報告され、今後も交流を図ってはという話も出ていました。今回は女性会員3名全員が参加され、華やかな中にも和気あいあいのうちに賑やかな時間が過ぎました。

山本 嶽支部長(昭20セ)より高齢のため退任したいとの申し出があり、新役員を決定し参加者の拍手で承認を受け、新しい支部の体制を確立しました。宴たけなわ、中川浩一氏(昭56ギ)の力強い先導で「都ぞ弥生」、鈴木康仁氏(昭50ゾ)の魂の籠もった前口上により「水産放浪歌」を全員で放唱し、最後は大泉 徹新支部長(昭54食)の締めの挨拶で、盛況のうちに終了することができました。

おしょろ丸歓迎会の参加者は、次の通りです。



北水同窓会福井県支部 おしょろ丸歓迎会

国田 裕(昭45食)

ここ数年前から、おしょろ丸が、福井県立大学海洋生物資源学部学生の航海実習のため、敦賀港に寄港するようになりました。このおしょろ丸の敦賀寄港に合わせて、去る平成26年4月13日(日)、福井県敦

おしょろ丸 船 長 高木 省吾(昭58ギ)
一等航海士 梶原 善之(昭53ギ)

クラス会 報告

水産学部 教授 久万 健志(水産博)
准教授 磯田 豊(理博)
京滋支部 前支部長 小林 正昌(昭39ゾ)
支部長 近藤 忠裕(昭54化)
福井県支部 県立大教授 長谷川健二(農博)

村 裕(昭31ゾ) 田原 大輔(平5ゾ)
国田 裕(昭45食) 別司愛津砂(平9ゾ)
鈴木 康仁(昭50ゾ) 藤野 数恵(平11生)
大泉 徹(昭54食) 仲野 大地(平16生)
富永 修(昭56ゾ) 大村 涼(平24資化)
中川 浩一(昭56ゾ)

北水同窓会青森支部 平成26年総会報告

山口 伸治(昭49化)



前列右より秋葉文和(昭37ゾ)、松宮隆志(昭53ゾ)、佐藤立治(昭36工)、山形寛(昭23ゾ)、高橋邦夫(昭28ゾ)、菅野溥記(昭37ゾ)、又井一宣(昭37ゾ)
中列右より小谷健二(平13生)、川村俊一(昭56ゾ)、安田明弘(昭53化)、今井美代子(昭56化)、横山勝幸(昭41ゾ)、伊藤博夫(昭41ゾ)、原口健二(昭47ゾ)、池田康(昭51ゾ)
後列右より山口伸治(昭49化)、対馬廉介(昭59ゾ)、工藤敏博(昭56化)、野呂恭成(昭57ゾ)、山内高博(昭55ゾ)、二本柳茂(昭57ゾ)、二木幸彦(昭57ゾ)、足助光久(昭40ゾ)、宝多森夫(昭51ゾ)、鳴海文義(平2ゾ)、吉田達(平元ゾ)

全国的に降雪量が多いことで知られている酸ヶ湯温泉を有する青森市ですが、今年は例年になく雪が少なく、除雪といつてもそう疲れることもなく何年ぶりに楽な冬となっています。

さて、平成26年2月8日(土)、北水同窓会青森支部平成26年総会が、市内「ラ・プラス青い森」で開

催されました。はじめにこの1年間に亡くなられました3名の方(鈴木慶照(昭25セ)、馬場勝彦(昭18ギ)、村山幸三(昭24ギ))のご冥福をお祈りし黙祷が行われました。次に、会員総意のもとで運営を行っていくための支部規約と、公平に祝意、弔慰を表すための支部慶弔規程が新たに制定されるとともに、平成26年新役員の選出も行われました。

新支部長松宮隆志氏(昭53ゾ)からは、会員の皆様が楽しんで参加できるよう努めて参りたいとの決意表明がなされました。

総会終了後、懇談会に移りましたが、出席者全員から近況報告などがあり、久しぶりの再会を喜び、共に語りあって楽しい時間を過ごし、最後に出席者全員で輪を作り、水産放浪歌と都ぞ弥生を齊唱した後万歳三唱して解散しました。来年は今年以上の多くの皆様に参加していただきたいと思います。

最後に、当支部長を長らく努められ、今年で勇退されました佐藤立治氏(顧問に就任)にこの紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

加が少なかったのですが、その理由は昨年、水産増殖学科が単独で同期会を函館で開催していたからです。

飯田浩二さんの乾杯発声の後、一人一人より近況報告及び自由な発言がございました。日中に母校の校舎を見にいったが、工事中だったという話に始まり、老いた親の世話で大変なこと、その一方できのいい息子の話、当時の学生食堂のメニューは非常に限られていたものの、今と違い間違いない地物の食材で調理されていたなどということ。当時、地元の女の子にカツ丼をご馳走されて、思わず嫁にしてしまったこと等々多彩な話が出ました。40年ぶりに会う者同士も少なくなく、初めは誰だかわからなかったり、話しているうちに漸く記憶がよみがえり、「ああ、あの時の!」と叫ぶ場面もありました。皆還暦をとっ

くに過ぎており、いい爺さんばーさんになってしまったので、無理からぬことです。ただ救いは、今回の参加者の中には、髪の毛が“玉碎”してしまった者がいなかつたことです。次回は「入学50周年を是非やりたいね」ということになり、植松光夫さんご発声乾杯のもと、閉会となりました。

続いて、同ホテル内のカラオケルームに2次会の会場を移ましたが、皆話に夢中になり、結局1曲も歌わずに閉会となりました。

札幌に行くよりも航空運賃がかかり、経済的負担も大変な中、遠路ご参加いただきました方々に、厚く御礼申し上げます。また、ご都合で参加できなかつた方々からは「盛会を祈ります」という暖かい言葉を幾つも賜りました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

昭和46年北海道大学 水産学部入学同期会報告

高橋 是太郎(昭50食)



新造船おしょろ丸V世の同窓へのお披露目及び北水同窓会総会前日の8月1日(金)午後6:15より、函館市湯の川温泉の花びしホテルで、昭和46年北海道大学水産学部入学同期会が開催されました。当日は、昭和47年入学の方も若干名入り、22名の参加となりました。うち女性は3人で、そのうちお一人は大村泰治さんの奥様です。今回は水産増殖学科の参

北水同窓会東京支部 平成26年度定期総会&新年会

浜谷 一郎(昭51化)



平成26年2月3日(月)18時30分より、銀座ライオン(6F) クラシックホールにて北水同窓会東京支部の定期総会及び懇親会が開催されました。

会は樋口 達夫 支部長(昭50食)の挨拶に続き、細見 典男 副支部長(昭48食)による乾杯の発声で懇親会が賑やかにスタートし、そこかしこで一年振りの再会を喜び、会場一杯の124名の参加者で例年以上の熱気に溢れていました。

途中、「会員活動紹介タイム」と称する企業や自分

の現在担当している仕事の紹介が若手のパワフルな我が北水の3名の理系女会員によって行われ、会場の注目を一身に集めていました。

この様な東京支部定期総会の盛況の要因はペテラン、若手、女性の会員のバランスが程良く取れ、年代を超えた交流がごく自然に出来てきた事が大きいのではないかと思われます。

また司会より本年8月2日の函館での北水同窓会の全国定期総会と竣工が成った忍路丸V世の見学会の案内と参加の呼び掛けもなされました。

途中、札幌支部の末岡 順 副支部長(昭51ゾ)の飛入り参加と北海道の近況報告等もあり楽しい時間はあつという間に過ぎてゆきました。

最後は参加者全員が肩を組み「水産放浪歌」「都ぞ弥生」の大合唱で最高潮に達したところで、菅原謙二 副支部長(昭51ゾ)の中締めで宴は閉会となりました。

尚、次年度の東京支部定期総会は平成27年2月2日(月)に本年同様、銀座ライオン(6F) クラシックホールにて開催予定で有ります事をこの紙面を借りて案内と報告をさせて頂きます。

藤原俊司君(昭53ギ)を囲んで

梶原 善之(昭53ギ)



写真の説明:(敬称略)

向かって、前列左から、魚野、宇佐見、林、桑原、藤原(俊)、小池
二列目左から、布施、阿部、高橋、倉田、二渡
三列目左から、宮崎、野坂、三橋、黒田
四列目左から、辻奥、大村、藤田、茅野、梶原、藤原(一)

平成26年2月、ソロモン諸島ホニアラに赴任している藤原俊司君(昭53ギ)が4月に一時帰国するという情報があり、東京で昭和54年修了の特設専攻科同期会開催の話を持ち上りました。同時に、昭和48年入学の有志を中心に東京で定期的に同窓会を開いていた太平山の会も同調することになり、X日は4月5日(土)と決まりました。

当日夕刻、会場となった居酒屋太平山(茅場町)に東京在住のメンバーの他、北海道から辻奥宏昭君、高橋正士君、小生、隠岐の島から三橋正孝君、石巻から小池幾世君、大阪から倉田隆喜君が駆けつけ、総勢21名が集まりました。次々と店内に顔を出す面々に、どよめきと再会を喜ぶ声が交錯し、会場は一気に40年の時を超えて昭和の時代へタイムスリップしました。学生時代を懐かしみ、それぞれの近況などを教え合いながら時の流れに酔いしれて宴は続きました。店主の「もう酒がなくなった」という声を潮時に、再会を約束しながら夜も更けた茅場町をあとにしました。

突然の呼びかけにもかかわらず、また4月初旬という忙しい中、集まってくれた同級生諸君に、感謝申し上げます。また、仕事の都合で参加できなかった方、連絡が行き届かず開催を知らなかつた方に心からお詫び申し上げます。

北水同窓会小樽支部総会

平山 聰(昭54ギ)



前列右より

小田一夫(昭45ギ)、藤田征晴(昭31ゾ)、東 廣(昭29ギ)、
山本貞夫(昭46化)、川島孝省(昭38セ)、草刈宗晴(昭39ゾ)、
桜庭啓恭(昭46ギ)

2列目右より

藤本崇人(平19生)、三宅教平(平16生)、柴田耕一郎(平7ギ)、
大見佳明(平11化)、原渕 圭(平24海資)、大田道代(平3ゾ)、
磯谷揚一(昭49ゾ)、五十嵐映兒(昭48化)、鎌田和幸(昭58化)、
村松裕史(昭54食)

3列目右より

平山 聰(昭54ギ)、長谷川智人(平10食)、梅崎真大(平10ギ)、
谷全尚樹(平15海)、大滝豊志(平元ギ)、嘉山雄大(平24海)、
片桐保昭(平2ギ)、大野 肇(昭55ギ)、安達泰之(平11海)

まだ雪深い小樽にて、2月14日、平成25年度小樽支部総会が開かれました。小樽市役所、小樽水産高校を中心に、大先輩から若手まで26名が参加し、総会・懇談会と、和気あいあいの時間を過ごしました。初参加の方もいて、お互いの近況報告で盛り上がり、あっという間に時間が過ぎました。その後、2次会でさらに盛り上がったグループもあったようです。同窓生が1年ぶりに集う総会、また来年も皆様の参加をお待ちしています。

書評

「南極海に生きる動物プランクトン」

—地球環境の変動を探る—

福地 光男(昭45ゾ)

谷村 篤(昭50ゾ)

高橋 邦夫 共著

成山堂書店 2014年3月発行

気候変動の影響により地球上の生態系が変わりつつあるということは近年よく知られるようになってきた。しかしながら研究者がそれらの現象をどのように捉え地球環境や生態系の変化に迫ろうとしているのか、そしてその研究や観測が今後どのような方向に向っているかという情報に触れる機会はあまりないのではないか。本書は、随所に口絵やコラムなどを効果的に使い、南極にまつわる様々な身近な話題や歴史等にも触れつつ、南極海洋生態学、動物プランクトン研究の意義とその面白さを紹介し、環境変動が生態系に与える影響に関するモニタリング戦略の国際的な動きを解説するものである。

本書本文は大きく3部に分けることができる。まず第1-2章で海洋生態系や動物プランクトンについてその定義、それらの特徴や観測手法、また極域の海が海洋大循環の中で果たす役割など、海洋学の基本概念を一般読者にも分かりやすく解説している。次に第3-5章では著者自身の研究成果を中心にして、海水の季節的消長のサイクルに見事に調和した様々な極域生物の生活戦略等の例を挙げ、気候変動がその調和をどのように狂わせる可能性があるのか、さらには海洋酸性化が生物群集に与える影響など、気候変動が南極海の生態系に及ぼす影響を分かりやすく解説している。そして最後に第6-7章で、日本南極地域観測隊が長年継続している海洋モニタリング観測の意義を解説し、そこで得られた現象を理解するには、時系列観測(Observation)、プロセス研究(Process study)、そして科学的なシナリオをチェックするためのモデル構築(Modeling)の融合が重要であることを説き、その活動を今後国際的な枠組みの中でどのように展開させてゆくべきかを提案している。



著者らが本書の中でも触れているように現場観測の難しさ等から南極動物プランクトンの生活史には特に未知の部分が多い。しかしこ十数年のテクノロジーのめざましい進歩により、観測機器、観測手法の革新、コンピューティングパワーの増大、さらには様々な分野への分子生物学的アプローチの応用により、海洋生態系の分野においても新たな発見やさまざまな概念の刷新がなされつつある。

これまでの長年の研究で南極海洋生態系についてどこまで分かったのか、その知見をもとに今後どのような変化が予測されるのか、そしてその変化は今後如何なる体制でモニターしてゆくべきか? 人間活動から遠く離れた南極海は他の海域に比べ環境変動による生態系変化をいち早く捉えるのに適した海域である。南極がそのような海域であるからこそ、科学的なシナリオに裏打ちされた戦略的モニタリングシステムの整備が不可欠であることを本書は系統的に綴っている。その上でこの戦略的モニタリングを今後どのように展開し、そこから得られるであろう情報を地球上の生態系保全のための管理方策の構築(Management)にどのように生かしてゆくのか? この点については、次世代の研究者たちが心して引き継いでいかなければならない課題であろう。

環境変動の研究は地球規模に展開するものであり、その研究推進には国際共同研究は必然である。しかし、それを成功に導くのは研究者同士の信頼関係とつながりである。本書にはこれから研究を目指す若者や若手研究者へのそのような示唆や期待そして激励の強いメッセージが込められているように思えてならない。

川口 創(昭60ゾ: オーストラリア南極局)

□学位取得者 [平成26年3月取得]

稻垣 祐太	噴火湾における底生魚類の生息環境に関する研究
大西 由花	アマモ場に生息する細菌による麻痺性貝毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の防除に関する生理生態学的研究
大橋 慎平	Comparative morphology and phylogenetic systematics of the family Ophidiidae and related taxa (Teleostei: Ophidiiformes) (アシロ科およびその近縁群の比較形態学および系統分類学に関する研究)
小泉 聰美	北海道漁村における漁協女性部の活動の役割 -時代的・社会背景との関連と活動者の意識構造に基づいた分析-
高橋 龍三	計量スキャニングソナーを用いた魚群の行動と音響散乱特性に関する研究
永野 優季	Phylogenetic systematics of the family Hoplichthyidae (Teleostei: Scorpaeniformes) (ハリゴチ科魚類の系統分類学的研究)
夏池 真史	北太平洋温帶域から寒帶域における麻痺性貝毒原因渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の生理生態学的研究
藤井 陽介	マコンブ養殖漁業経営体の経済性と生産性を両立させるための生産計画
呉 美琴	Molecular Biological and Immunobiochemical Studies of Multiple Vitellogenins in Dojo Loach (<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>): Integration of Basic Information to be Practical Biomarkers for Evaluating Aquatic Estrogenic Activities (ドジョウの多型ビテロジェニンに関する分子生物学的及び免疫生化学的研究:水圈エストロジエン活性評価の実用的バイオマーカーとしての基礎的情報の集積)
北村 志乃	Molecular phylogenetic studies on the Odontoceti, with special reference to the family Ziphiidae and Delphinidae (ハクジラ亜目鯨類の分子系統学的研究-特にアカボウクジラ科とマイルカ科について)
佐藤 琢哉	エゾアワビ・デンブン分解酵素の生化学的研究 - α -アミラーゼと α -グルコシダーゼによる海藻からのグルコース生成-
董 捷	Studies on genetic and reproductive characteristics of natural polyploid silver crucian carp <i>Carassius auratus langsdorffii</i> (自然倍数体ギンブナの遺伝および生殖特性に関する研究)
侯 吉倫	Induced androgenetic diploids without egg irradiation in loach and zebrafish (卵の照射によらないドジョウとゼブラフィッシュの雄性発生二倍体誘起)
三上 大輔	フジマツモ科海藻由来プロモフェノールのグルコース-6-リン酸デヒドロゲナーゼ阻害特性に関する研究
水田 紘子	Studies on Mechanism of Endocytosis of Vitellogenin via its Receptor on the Oocyte of Cutthroat Trout, <i>Oncorhynchus clarkii</i> (カットストロートトラウト卵母細胞における受容体を介したビテロジェニエンエンドサイトーシス機構に関する研究)

□平成25年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

学部	
むつ市役所	五所川原市役所/東大阪市役所/株微生物化学研究所/株道水/唐津市役所/気象庁/ミヨシ油脂(株)/能美防災(株)
日本SE(株)	山崎製パン(株)/日本郵船(株)/楽天(株)/株クラレ/海上保安庁/キッコーマンソイフーズ(株)/株ニトリ
(株)ニチレイロジグループ本社	双日食料(株)/兼松(株)/厚生労働省/大和証券(株)/三菱商事(株)/第一ファインケミカル(株)/長崎県庁
新潟県庁/川崎汽船/広島県立尾道北高等学校/株鷗州コーポレーション/株小樽水族館公社/株アレフ/日本郵政スタッフ株式会社	
シュレン国分(株)/一般財団法人 日本食品分析センター/株りそな銀行/北海道漁業協同組合連合会/カネシメ高橋水産(株)	
六花亭製菓(株)/アルファ・水工コンサルタント/北海道庁/株インフィニットループ/ホームマック(株)/北海道信用漁業協同組合連合会	
厚生労働省北海道労働局/札幌市役所/丸水札幌中央水産(株)/エヌ・ティ・ティ北海道テレマート(株)株式会社アキバ設計/函館市役所	
社会福祉法人 函館厚生病院 函館五稜郭病院/株日本政策金融公庫/株ミスター・マックス	
修士	
中部飼料(株)/野村化学株式会社/株川本製作所/常滑市役所/農業(家業の継承)/日本ハム(株)/サノヤスホールディング(株)	
モンベルグループ/三栄源エフ・エフ・アイ(株)/(株)日清シスコ/新田ゼラチン(株)/江崎グリコ(株)/ロート製薬(株)/山佐(株)/味の素(株)	
(株)えがお/(株)東洋新葉/鈴与(株)/(株)TOKAIホールディングス/銚子商業高等学校/ヤマサ醤油(株)/ウェザーニューズ/イオンリテール(株)	
全国生活協同組合連合会/カルビー(株)/(株)早稲田総研イニシアティブ/WDBエウレカ(株)/(株)東京一番フーズ	

味の素ゼネラルフーズ(株)/高瀬物産(株)/エスピー食品(株)/いであ(株)/北部太平洋まき網漁業協同組合連合会/日本電気(株)(NEC)
富士通エフ・アイ・ピー(株)/ENEOSグローブ(株)/キヤノンITソリューションズ(株)/東日本旅客鉄道(株)/ソフトバンク(株)/三菱重工業(株)
日本たばこ産業(株)/日清丸紅飼料(株)/(株)マルハニチロホールディングス/カゴメ(株)/(株)出光興産/日本放送協会
一般社団法人 日本海事検定協会/ブリマハム(株)/(株)ニチレイロジグループ本社/東洋水産(株)/(株)極洋/大日化成工業(株)
高砂香料株式会社/カルピス(株)/一般財団法人 日本食品分析センター/株野村総合研究所/郵船商事(株)/(株)永谷園/東罐工業(株)
カネツツデリカフーズ(株)/広島県庁(水産)/小樽市役所/SOC(株)/(株)セイコーマート/医療法人社団 神谷レディースクリニック
北海道庁(水産普及職員)/北海道庁/(株)システム・ケイ/雪印種苗(株)/函館市役所/(株)モビリティランド/(株)イーテック
(株)リクルートライフスタイル/公益財団法人下関海洋科学アカデミー/株医学生物学研究所

博士

岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト 三陸水産研究センター/Hasanuddin Univ./大阪府立環境農林水産総合研究所
BGI Japan 株式会社/北海道立総合研究機構さけます内水面水試/北海道立水産孵化場/北海道立地質研究所
北海道大学 ポストドクター(特別研究員ではない)/北海道立総合研究機構食品加工研究センター

□会員異動

○平成26年3月31日 付

一色 賢司 水産科学研究院教授が任期満了のため退職
蛇沼 俊二 水産科学研究院准教授が辞職
木村 順一 水産学部附属練習船おしょろ丸助教が定年のため退職

○平成26年4月1日 付

樋口 達夫 大塚ホールディングス(株)代表取締役社長兼CEOが北海道大学経営協議会委員に就任(期間:平成28年3月31日まで)
横山 清 (株)アークス代表取締役社長、(株)ラルズ代表取締役会長兼CEOが北海道大学経営協議会委員に就任(期間:平成28年3月31日まで)
安井 肇 水産科学研究院教授が大学院水産科学研究院長・大学院水産科学院長・水産学部長に就任(期間:平成28年3月31日まで)
高木 省吾 水産学部附属練習船おしょろ丸准教授が水産学部附属練習船おしょろ丸船長に就任(期間:平成28年3月31日まで)
木村 暢夫 大学院水産科学研究院教授が大学院水産科学研究院副研究員に就任(期間:平成28年3月31日まで)
宮下 和夫 大学院水産科学研究院教授が大学院水産科学研究院副研究員に就任(期間:平成28年3月31日まで)
足立 伸次 大学院水産科学研究院教授が教育研究評議会評議員に就任(期間:平成28年3月31日まで)
綿貫 豊 水産科学研究院准教授が同教授に昇任
嵯峨 直恵 水産科学研究院教授が弘前大学食料科学研究所教授へ転出
上野 洋路 水産科学研究院助教が同准教授に昇任
中川 聰 水産科学研究院准教授が京都大学大学院農学研究科准教授へ転出
久万 健志 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
五嶋 聖治 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
桜井 泰憲 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
芳村 康男 水産科学研究院前教授が同特任教授に採用
佐藤 淳一 水産学部付属練習船おしょろ丸一等機関士が同機関長に就任
木村 修 水産学部附属練習船うしお丸助教が同特任助教に採用

○平成26年8月1日 付

木村 修 水産学部附属練習船うしお丸特任助教が同おしょろ丸特任助教に採用

会員死亡通知

沢田 隆司 (昭19ギ)	平成24年 6月	ご家族様より
徐 雲鵬 (昭19セ)	平成26年 8月19日	神山茂郎(昭19セ)様より
宇野 浩 (昭22セ)	平成26年 6月22日	市川 渡(昭22ギ)様より
服部 晴夫 (昭23ギ)	平成26年 8月16日	井部 勉(昭23ギ)様より
松本 昌也 (昭23ギ)	平成26年 2月12日	ご家族様より
渡辺 幸造 (昭23ギ)	平成26年 6月 1日	ご家族様より
志田 仁男 (昭24セ)	平成26年 2月19日	ご家族様より
宮川 芳明 (昭25セ)	平成26年 4月25日	ご家族様より
用正 文男 (昭26エ)	平成26年 6月20日	前田辰昭(昭26エ)様より
石川 嘉郎 (昭26ゾ)	平成26年 7月 1日	川端昭治(昭26ゾ)様より
武井 正仁 (昭26ゾ)	平成26年 4月26日	川端昭治(昭26ゾ)様より
昆野 宏爾 (昭28ギ)	平成20年12月31日	安孫子勇治(昭33ギ)様より
三浦 文夫 (昭28セ)	平成26年 7月13日	土田健治(昭35ゾ)様より
花田 庄司 (昭28ゾ)	不明	返送物により判明
菅原 重雄 (昭29エ)	平成26年 4月30日	ご家族様より
小林 勇 (昭30ギ)	平成26年 1月29日	ご家族様より
市川 哲也 (昭30セ)	平成26年 6月	ご家族様より
西塔 邦夫 (昭31エ)	平成26年 6月 3日	倉兼賢治(昭46ギ)様より
前田 善三郎 (昭31セ)	平成26年 7月16日	我妻雅夫(昭52ゾ)様より
村上 一 (昭31セ)	平成26年 2月27日	四方 純(昭43食)様より
須田 弘一 (昭31ゾ)	平成26年 7月 1日	箕田 嵩(昭31ゾ)様より
青木 曜 (昭33ギ)	不明	ご家族様より
土門 為太郎 (昭33セ)	平成25年 8月23日	ご家族様より
山田 議弘 (昭34ギ)	平成26年 1月19日	菊地英樹(昭34エ)様より
宇野 徹夫 (昭34セ)	平成26年 3月 9日	菊地英樹(昭34エ)様より
久保 治良 (昭35エ)	平成25年12月 3日	細萱安彦(昭35エ)様より
池田 清哉 (昭36エ)	平成26年 8月29日	和田 厚(昭36エ)様より
坂本 康明 (昭36エ)	平成25年 2月10日	松井 鮎(昭36ゾ)様より
五十嵐 憲治 (昭37エ)	平成26年 7月 7日	高橋 守(昭34エ)様より
柿市 勝重 (昭41エ)	平成25年 7月	藤井洋治(昭42ギ)様より
中尾 闊 (昭42ギ)	平成25年10月	岸本富男(昭42ギ)様より
黒田 広和 (昭42エ)	平成25年 1月14日	岸本富男(昭42ギ)様より
佐々木三樹男 (昭43エ)	平成26年 1月 8日	ご家族様より
天野 芳享 (昭50ギ)	平成26年 2月20日	ご家族様より
杉本 新一 (昭53ゾ)	平成25年 2月21日	河村治夫(昭53ゾ)様より
遊佐 清明 (昭62ギ)	平成26年 4月30日	ご家族様より
戸佐 進 (平3ギ)	平成26年 2月19日	ご家族様より

お詫び

親潮第302号の本欄において以下の誤りがありました。
謹んでお詫び申し上げますとともに訂正いたします。

別司榮四郎(昭24エ) → 所司榮四郎(昭24エ)

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)のみ受け付ける。写真は入れられない。

【編集後記】

平成26年度「親潮」第1号(通算303号)をお届けします。

今号は、例年より2週間程遅れた発行となりましたが、これは、通常5月開催の総会が8月の開催となり、その報告文を掲載する必要があったためです。ご了承をお願いいたします。また、総会とそれに付随して行われた各種行事に、多数の同窓の皆様のご参加を頂き、誠にありがとうございました。

今号の特集「北水の今」では、新造された「おしょろ丸V世」の特色を、水産科学研究院副研究長の木村暢夫(昭55ギ)先生にちょっと専門的に解説して頂きました。8月2日の公開では、幹事の業務の合間にむって見学させて頂きましたが、びびりかの船体がまぶしく、普段、船舶を利用しない私も調査航海に参加してみたりました。これから数多くの発見が「おしょろ丸V世」でなされ、また、たくさんの学生が水産学部でしかできない貴重な体験をして成長していくこと思います。

平成26年度第2号は通算304号目の親潮になります。原稿の締め切りは、平成27年1月10日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp)にて受付しております。支部報告や同期会報告、著書の紹介など、皆様ふるってご投稿下さいますようお願い申し上げます。詳しくは上欄の投稿規定をご参照下さい。

(編集幹事/田中啓之 平元化)

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円~承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山 一郎

本 社 〒040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939
釧路営業所 〒084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
札幌出張所 〒065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
鮮魚部 TEL 017(738)1281
冷凍部 TEL 017(738)8221
塩干部 TEL 017(738)5511
加工部 TEL 017(738)6581
企画部 TEL 017(738)1281
管理部 TEL 017(738)1181

ホームページ <http://www.aochuu.co.jp>



海洋土木株式会社

本社 東京都中央区銀座3-9-11
TEL: 03-3544-5511 <http://www.kaiyodoboku.com>

代表取締役 木實谷浩史 (54ゾ) 取締役副社長 石井直志 (49ゾ) 取締役札幌支店長 佐々木洋 (53ギ)
青森営業所長 山口伸治 (49化) 北陸営業所長 魚住昭文 (52ギ) 札幌支店部長 村井和明 (59ゾ)
技術部部長代理 日和久典 (平6ギ)

玉館竹田

食卓に函館の味を

株式会社

竹田食品

代表取締役 竹田寿広

本社工場 函館市浅野町3番10号
TEL (0138) 43-1110(代) FAX (0138) 43-1113

札幌営業所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号(水産保冷配達センター3F)
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売㈱ 東京都中央区築地7丁目5番3号(紀文第一ビル2階)
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売㈱ 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号(日宝ビル5階3号室)
TEL (022) 772-1970 FAX (022) 722-1987

竹田食品販売㈱ 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号(NLCセントラルビル5階)
TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

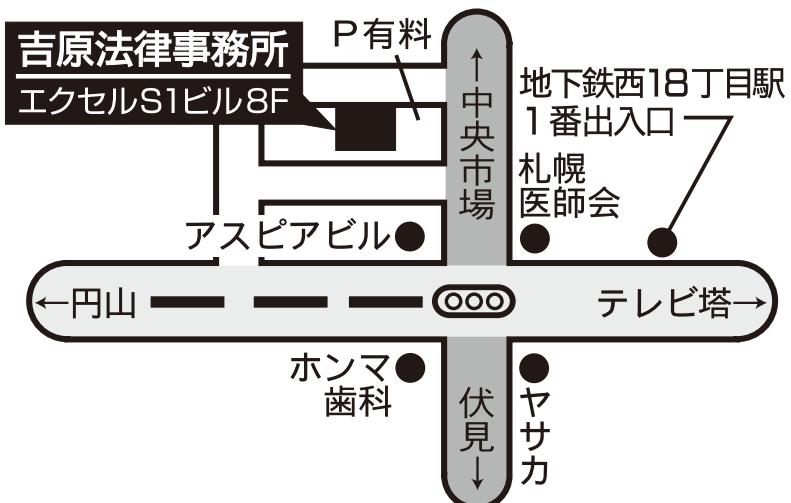
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通)東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。